島田 徹 INDEX

(平和を願って)

(半和を願って)	
前泊教授の講演会に参加して「最近のメディアのひどさ」に思う	(2018.3)
インド・ダージリンの日本山 妙法寺を訪ねて	(2019.12)
ネパールから見えるコロナ問題	(2020.7)
"平和のみみ(美海)ちゃん"と・・・・	(2020.11)
「黒い雨」訴訟 — 戦争はまだ終わっていない! 国の上告断念は当然!	(2021.8)
被爆者の期待を踏みにじった G7 広島サミット!	
戦争を防ぐと核抑止論を正当化、核兵器禁止条約を無視!	(2023.6)
7月のつどい学習会に参加して 改憲的護憲論に思う	(2023.9)
<u>ネパールでささやかな平和活動を実践して</u>	(2023.10)
教科書での第二次世界大戦の記述 ―ネパールで感じた事―	(2023.11)
<u>非同盟のネパール外交は?(その4)</u>	(2023.12)
=「はだしのゲン」を考える=広島市教育委員会 平和教育副教材から削除!	(2024.1)
=能登半島地震に思う= 地震列島に原発はいらない!	(2024.2)
神戸市議会で、憲法改悪の「緊急事態条項」推進の動き!	(2024.5)
「台湾有事?」の台湾・金門島を訪問して・・・	(2024.6)
(雑感) 機上での話 == SDGs は先進国のエゴ! ==	(2024.7)
(雑感 その2) ネパール・・日常茶飯事の政権交代?・・	(2024.8)
(雑感 その3)8月9日「長崎の日」	(2024.9)
ノーベル平和賞は日本被団協に!	(2024.11)
(雑感)「平和」という言葉	(2025.1)
神戸市長は非核「神戸方式」を誠実に守れ!	
「非核証明書」のない米艦船の入港に抗議する!	(2025.4)
(ワンダフルライフ)	
<u>ネパールからナマステ!</u>	(2015.9)
<u>ネパールから翁長知事に激励のメール</u>	(2015.10)
ネパール報告記 (その3)	(2016.1)
9条の会の旗を尋ねて、幾千里!	(2016.10)
小さな国の方達と交流して感じたこと(ブータン、ネパール)	(2016 . 11)
言葉と文化	(2017.3)
<u>ネパール語に"ふるさとを想う!!</u> " その1	(2017.9)
ネパール語に"ふるさとを想う!!" その2	(2017.10)
悲しい現実・・・ネパールのカースト制	(2018.2)
ネパールでの生活(1)	(2018.8)
原爆展に参加して ネパールでの生活(2)	(2018.9)

日本で話題になっている「留学生」とは ネパールでの生活(3) 中国とインドとのはざまで…ネパールのしたたかさ? ネパールでの生活(4) 被爆「ハマユウ」がネパールにも! (明るい街に)	(2018 . 10) 4) (2018 . 11) (2019 . 10)
神戸市の「都市空間向上計画」って何??	(2019.8)
(読んだ見た聞いた)	
ミサイルでコロナを滅ぼせる!? 中村医師「良心の実弾」ビデオを見て	(2020.8)
「奇跡の街合唱団」のコーラスミュージカルを見て	(2022.8)
選択的夫婦別姓に思う・・・子どもの名前はどうなるの?	
ーーネパールの状況も参考にしてーー	(2025.4)
(エッセイさまざま)	
ネパールにも9条の会の旗が!!	(2014.12)
3年ぶりのネパール まずはコロナの洗礼から・・顛末記	(2022.10)
3年ぶりのネパール ネパールのこの 3 年間で変わったこと・・・	(2022.11)
<u>3年ぶりのネパール チベット難民とネパール</u>	(2022.12)
3年ぶりのネパール ラチェン村、三度目の訪問・・・過疎化の進行	(2023.1)
3年ぶりのネパール ネパールの国政選挙の様子とその結果に思う	(2023.2)
「NHK と森下は、原告 1 人当たり 2 万円の損害賠償金を支払え!」	(2024.4)
(雑感 その4) いろいろありましたが・・・・・	(2024.10)
コーヒーブレイク(青字の部分は3択クイズ)救急車、消防車の奮闘に感謝!	(2025.2)

(平和を願って)

前泊教授の講演会に参加して「最近のメディアのひどさ」に思う (2018.3)

島田徹 (竹の台)

前泊沖縄国際大学大学院教授が 2 月 18 日の講演会で「名護市長選挙でのメディアをつかった情報のねつ造がひどかった」との話をされました。

無責任というよりは悪意を持って、「フェイク情報」が真実かのように垂れ流され、世論操作が行われているように私は思います。安倍首相が頻繁に行っているマスコミ代表との食事会を通じ



た対策が効いたのか、今や商業新聞を中心にしたマスコミは真実を伝えず、大本営発表を「忖度」した範囲内での報道しか行っていないように思います。特に、NHKの「政権与党の礼賛」報道はひどく、朝のNHKのラジオニュースでは北朝鮮問題と安倍首相の言葉が何十回も出てきます。また、原発や核兵器の問題についても、安倍政権の見解をそのまま伝える報道となっています。

さらに、これらに関する裁判案件も地裁では勝訴であっても上級審では敗訴になるのを見ると、 この日本には正義はあるのか!!と、腹立たしく思っています。(ところで、今、学んでいるネパー ル語で裁判官の意味は、「あたたかい、真心のこもった」という語彙から派生した「正義・公正を行う 人」であるのが、興味深いところです)

こうした中で、小さい出来事かもしれませんが、最近、神戸新聞の社是の変更がありました。 神戸新聞が創刊 120 周年を迎える機会に、社是をこの 2 月 11 日付けで「私たちは公正に伝え、人をつなぎ、くらしの充実と地域の発展につくす」に変えました。旧社是には「公正」の文字がありませんでした。あえて今の時期にこうした変更を行ったことに、長い読者である私としては、嬉しく思いました。

ついでに今、安倍から攻撃されている朝日新聞の綱領(別記)を見ました。すごい!の一言です。 この綱領は、マスコミ関係だけでなく、あらゆる立場の人たちの指針となるもののように思いま す。

「9条の会」が地道であるが、真実を伝える活動を継続していくことの意義が一層あると感じました。

(別記) 朝日新聞綱領(1952年制定)

- 一、不偏不党の地に立って言論の自由を貫き、民主国家の完成と世界平和の確立に寄与す。
- 一、正義人道に基いて国民の幸福に献身し、一切の不法と暴力を排して腐敗と闘う。
- 一、真実を公正敏速に報道し、評論は進歩的精神を持してその中正を期す。
- 一、常に寛容の心を忘れず、品位と責任を重んじ、清新にして重厚の風をたっとぶ。

インド・ダージリンの日本山 妙法寺を訪ねて

(2019.12)

島田徹 (竹の台)

日本山妙法寺(にほんざん みょうほうじ)というのは、日蓮系の宗派で、この宗派によって建立された諸寺共通の名称です。指導者は藤井日達師(1885~1985)で、1914 年静岡県田子の浦にお寺を開創したのが最初で、中国・インドや世界各国に建立しています。藤井日達師はインドのガンジーの影響を受け、広島、長崎の原爆を契機に非武装・不戦を主張し、原水爆禁止・軍事基地反対の平和運動を展開しました。今、日本山妙法寺渋谷道場は日本の各宗教界での「宗教者 9 条の和」の事務局として活動しています。



国民平和大行進(毎年、各地から広島・長崎へ行進している)で、「南無妙法蓮華経」と唱えながら 太鼓をたたいているお坊さんがいますが、私もよく一緒に行進しました。

このようなお寺でしたので、私は 4 年前にネパールのルンビニ(ブッダの生誕地)と2年前はポカラにある日本山妙法寺を訪問しました。ルンビニのお寺の入口には「9 条の会」の旗がありました。

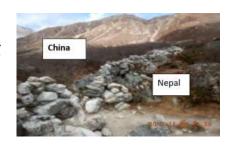
今回は、ネパールから少し遠かったのですが、インド・ダージリンにある日本山妙法寺を訪問しました。地元の運転手もこのお寺のことを「Hiroshima,Nagasaki,peace temple」と言って、よく知っていました。お寺の周辺はよく清掃されていて、木立のなかにあって静寂そのものでした。日頃喧騒の中で過ごしている私にとって、本当に癒される場所でした。

本殿では、藤井日達師の経歴を中心とした展示がされていました。広島、長崎関係の展示を探している時、寺の関係者がおられたので、「日本から来ました」と伝えると、日本人のお坊さんが来て、私を別室に案内してくれました。そこには、このお寺の 27 周年法要のために来られたアメリカから 2 人、イタリアから 1 人のお坊さんを紹介してくれました。世界的規模のお寺だということをつくづく実感しました。私がこのお寺を訪問するのは、ルンビニ、ポカラに続いて 3 つ目ですと伝えると大変喜んでくれました。現在、ネパールのカトマンズにも建設中で 2 年先に完成するとのこと。 2 年先にカトマンズで再会することを約束して、お寺を後にしました。

ただ、お寺に広島・長崎の展示室があったかどうか確認できなかったのが、悔やまれました。

竹の台 島田 徹

日本は海に囲まれており、国境というイメージがよくわかりませんが、大陸の国では、まさに陸続きでクシャミをすれば 隣の国にウイルスは飛んでいきます。



そもそも国境周辺の人々は以前から、言葉も文化も同じで 双方の行き来は当然で、親戚もいます。時の権力者が勝手に

国境ラインを引いたもので、地元住民からすれば迷惑な話です。実際、ネパールとインドはパスポートも必要なく自由往来できます。地元の人は検問所を通るのは面倒なので、川の浅瀬を渡って親戚の家や商売に出かけることもできます。ネパールと中国も場所によっては、右上写真のように峠道に石が積まれているだけです。

インドの感染者が 40 万人を超えるなか、隣のネパールでは、日々400 人ほどの感染者が発生しています。これは主に出稼ぎ労働者が仕事がなくなったため、ネパールに戻り、2 週間の隔離施設での検査が主な要因です。出稼ぎ労働者の送金額が GDP の 30%近くあり、ロックダウンを続ければ国も立ち行かなくなる状況で経済活動を再開し始めました。しかし、国民はこれからの生活に展望が見えない状況です。 ちなみに、知り合いの旅行会社への支援策は、ロックダウン中は銀行からのローンの利子を2%下げてくれるだけです。こうした貧困国への支援が国際的になければ、コロナ問題は解決しません。

コロナ感染は富める者と貧しい者を区別しませんが、その犠牲は貧しい者に多く出ています。例 えばアメリカでは黒人の死亡者が白人の 2 倍とのことです。経済格差が命の格差となっています。

今回のコロナウイルスの根源は、自然破壊を進める人間と、体内にウイルスを潜在化させている動物との近接状況がもたらしたと学者が指摘しています。この近接状況を一層進めているのが今の利潤第一主義と環境破壊(地球温暖化)を顧みない経済体制(新自由主義)であり、これを見直す必要があるとの声が高まっています。

地球に国境はない!今こそ、世界が力を合わせてコロナ撲滅に向けて進むべき時と思います。

竹の台 島田 徹

"平和のみみ(美海)ちゃん"をご存知ですか。1975 年(昭和 50年)に神戸市会において、神戸港に入港する外国艦船に「非核証明書」の提出を義務付ける非核「神戸方式」が制定されてから、今年で 45年になります。非核「神戸方式」の記念碑として、建立実行委員会が2008年に華僑記念館の故林同春さんの好意で敷地内に建立することができました。本来は、ハーバーランド内に設置場所を提供してほしいと神戸市に願い出たのですが、拒否されたため、この地となりました。しかし、今から考えると元町駅から場所も近いので、見学者も多いようです。ちなみに私は同委員会の事務局長でしたので、寄付集めに T シャツ販売などで苦労したことが思い出されます。



ところで、今年の2月に韓国の平和団体(spark)が「非核釜山港」を実現したいとのことで、兵庫県原水協との交流フォーラムがあり、これに参加しました。みみちゃんの見学も予定されていると聞き、汚れが目立ってきていたみみちゃんを廣島先生(製作者)と一緒に「洗い」ました。

この時、平和の声を聴く姿のみみちゃんが「戦争の足音が聞こえてくるよ!」と私にささやいたように思いました。戦争はいまでも世界各地で起こっており、日本も自衛隊が戦闘地域に行く準備がすでにできています。「ごめん、ごめん、私たちの努力がまだまだ足りないようだ。みみちゃんも平和が続くように応援してね」とつぶやきました。

これから冬を迎えるので、みみちゃんにコートを着せたいと思っているのですが・・・・。

(追伸 核兵器禁止条約がこの 10 月に世界の 50 ヶ国が批准したので、来年 1 月に発効することになりました。日本政府に核兵器禁止条約への署名・批准を迫りましょう。)

「黒い雨」訴訟――戦争はまだ終わっていない! 国の上告断念は当然!

(2021.8)

竹の台 島田 徹

7月14日に広島高裁は「原爆黒い雨被爆者訴訟」で、広島地裁の昨年の勝訴判決(原告全員を 被爆者と認定)を支持・強化し、国らによる上告を退け、原告84人に対し被爆者健康手帳の交付 を命じました。国はこれまで「平成3年の専門家会議で検討を行った結果、黒い雨降雨地域における残留放射能の残存と放射線によると思われる人体影響の存在を認めることはできなかった」を根拠に放射能の影響を受けなかったとしていました。しかし、広島高裁は「争点は放射線の影響をうけた『事実の有無』ではなく、『可能性の有無』」として、これま

で国に釈明を求めていました。こうした経過の中での高裁勝訴判決でした。

日、国は上告を断念しました。



原告は、原告 84 名中すでに 19 人が亡くなっており、全員が高齢であることからも、国家権力 による理不尽な「弱い者いじめ」というべき上告を直ちに撤回すべきとして、国に対し上告断念を求めるネット署名や国会前の集会など最後まで「命を懸けての戦い」を貫きました。そして、 26

高野正明原告団長は「戦争はまだ終わっていない、今後、原爆被爆者認定の第 1 種健康診断特例区域の拡大をはかり、すべての「黒い雨」による被爆者を被爆者援護法の「被爆者」と認める よう国に求めていく」決意を示しています。

憲法 25 条の「生存権、国の社会的使命」には、国は社会保障の向上及び増進に努めなければならないことが明記されています。また、核兵器禁止条約が発効し、被爆者支援へ動いている中 で、国は世界の流れに沿った対応をすべきです。

当会では、8 月 22 日(日)14 時から西区文化センターで「戦争体験 を聞く会」を開催します。 昨年 12 月に発行した「私のなかの戦争―戦争体験を語る(第 2 集)」は 12 名の方に投稿していただき、今回 3 名の方から体験を聞く 会としています。投稿者のうちすでに 2 名の方が亡くなりました。 「戦争してはダメ」という強い願いと「黒い雨」訴訟団の方々の思い を重ね合わせれば、私たちは「戦争はまだ終わっていない」ことを再確認して、憲法を守り発展させる活動に取り組む必要があると思っています。

(黒い雨 A5 版 151P1 冊 500 円)

被爆者の期待を踏みにじった G7 広島サミット! 戦争を防ぐと核抑止論を正当化、核兵器禁止条約を無視! (2023.6) 島田 徹 (竹の台)

G7、主要 7 か国首脳会議が被爆地広島で行われ、5 月 19 日「核軍縮に関する広島ビジョン」が発表されました。その内容について、被爆者や被爆者団体から大きな批判の声が上がりました。

それは、この広島ビジョンの中には「被爆者」「核兵器禁止条約」の文字がありませんでした。 また、広島ビジョンはロシアや中国へ核兵器の廃絶を求めながら、自らの核兵器廃絶にはふれていません。ウクライナのゼレンスキ―大統領を呼んでの広島舞台で、「核抑止力論」の正当化とウクライへの軍事協力を謳いました。被爆者からすれば、核兵器を使用する前提としての「核抑止力論」を被爆地広島から世界に発表することは、被爆者の願いを踏みにじる悪業としか言いようがありません。被爆者 2 世でカナダ在住のサーロ節子さんは「G7 は大変な失敗だった。多くの被爆者は同様に考えている」、日本被団協の木戸事務局長は「願いは裏切られた。核抑止論に立った議論、戦争を煽る会議になった」と批判しています。

核兵器禁止条約は核兵器の「開発・製造・貯蔵」はもとより「使用、使用の威嚇」も禁止されています。また、「条約締約国の領土と管轄地域への核兵器の配備、配備の許可」の禁止なども明記されています。したがって、日本が、アメリカの核の傘に依存する限り、この条約への参加は不可能になります。

唯一の被爆国である日本政府は、戦争放棄の憲法を持っており、さらに国連憲章の平和主義を 生かす先頭に立つべきです。しかし、アジアで戦争を煽る先頭に立つ国であることに憤りを感じま す。

また、マスコミはこのような広島ビジョンの「戦争を煽る会議」の問題点を追及しないばかりか、 賛美さえしています。平和憲法を持つ日本、そして被爆者の願いを無視するメディアの責任は 大きいと思います。

私は「兵庫の語りつごう戦争展」のメンバーとして毎月1回、原爆投下地点の「着物やガラスが刺さった絵」の展示物の横で戦争資料整理にあたっています。原爆は日本人にとって過去のものではなく、今も原爆症で苦しんでいる方々がおられます。そして、先日訪問した南西諸島がミサイルの軍事要塞化へと、急ピッチで進められていることを目の当たりにし、あらためて今回のG7広島



ビジョンに大きな怒りを感じています。

7 月のつどい学習会に参加して

改憲的護憲論に思う (2023.9)

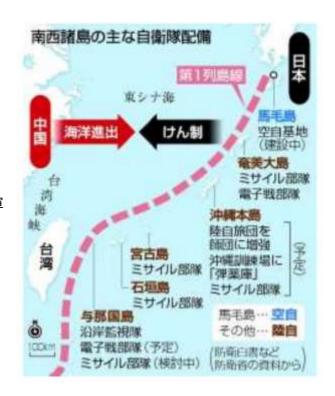
島田 徹 (竹の台)

7月16日に7月のつどい「憲法9条で日本は守れるかⅡ~翼賛体制にくさびを打ち込むために~」のテーマで八木和也弁護士の学習会がありました。これは昨年の5月のつどいで八木先生から学んだ学習会のパートⅡの内容でした。わずか1年後の学習会でしたが、レジメの内容も憲法9条をめぐる情勢が悪化して、護憲勢力が押し込められていることがにじみ出ていました。

昨年の学習会はロシアによるウクライナ侵攻を受けての時期であり、その時の学習会で学んだのは「改憲的護憲論」でした。つまり、安保条約は賛成、自衛隊は賛成、しかし、憲法 9 条は守りたいという世論の考え方が護憲派の中で大きくなっているというものでした。その時、私が思い出したのは、「憲法 9 条にノーベル賞を」の運動に対する世界の平和活動家からの批判です。つまり、日本での世論調査では日米安保条約に賛成するのが過半数以上あり、一方、憲法 9 条を守りたいというのが60%以上もあるというのは、戦争はしたくない、他人に国を守ってもらいという国民性にノーベル賞云々の資格はないというものです。この批判の本旨は軍事同盟に賛成しない世論を作るべきとのことです。

しかし、この改憲的護憲論の危うさは、岸田 内閣が昨年の12月に閣議決定した「安保3 文書」に基づく関連5法案への各党の態度に 現れてきたように思います。つまり、その法案 の一つである「軍需産業支援法」に自民、公明、 維新、国民の賛成はもとより、立憲民主党まで も賛成したのです。日本共産党、沖縄の風など が反対しましたが成立しました。この法案は、軍 需産業の利益を保証して育成し、それでも難し い企業は国営企業を設立するという法案でし た。まさに「平和の準備」では

なく、「戦争の準備」の法案でした。私がこの 3 月に南西諸島で見てきたミサイル基地強化の 支援策そのものです。このことはすでに改憲的 護憲論すら成り立たなくなってきていることを 示していると思います。



八木先生が今回の学習会で強調したのが、こうした世論の変化、「日本人の精神構造の変化」であり、「中国による台湾侵略」があるかもしれないというマスメディアを使っての恐怖の増幅によって、「軍備の備え」こそが「平和への準備」と思わせる世論を作って来たとのことです。 これにくさびを打ち込むには、一人対一人の対話を積み重ねるしかないとのことでした。

私たちが行う「1の日行動」での宣伝・署名活動でも確かに「軍備が必要」との声が多くなってきています。このような世論に対して、結局は一人対一人でゆっくり対話をして、その対話の基軸は憲法 9 条が第2次世界大戦の加害者としての反省から作られたものであることをしっかり訴えることの重要性を説かれました。

私もこの学習会に参加して、コツコツとがんばろうとの思いと同時に、「戦争の準備ではなく、平和の準備の展望」をもう少し具体的に確信にしていただければと思いました。

ネパールでささやかな平和活動を実践して(2023.10) 島田 徹(カトマンズ滞在)

毎年、数か月間、ネパールには日本語学校のボランティアとして滞在しています。もう、7回目となりました。本来は 2 週間ほどのトレッキングも目的ですが、今回の滞在は2か月間と短いため、トレッキングはあきらめました。

ところで、昨年は 9 月から 11 月まで、コロナが終息したので、3 年ぶりに行く事が出来ました。 この時には、ネパール AAPSO(Afro- Asian People's Solidarity Organization)という、 日本 AALA(アジアアフリカラテンアメリカ連帯委 員会)とも友好関係にある組織の事務局長である Gopal さんと交流することができました。



(昨年の歓迎会の様子)

このネパール AAPSO は例年、日本 AALA の大会などにメッセージを送ってきていますので、私は Gopal さんと無理やり関係を作った次第です(笑い)。この組織の状況はわかりませんが、大体、大学教授などが主なメンバーのようでそれほど大きくはないようです。この組織の会長は元首相のオリ(統一共産党)がなっています。ネパールには、大きな政党がなく、統一共産党とマオイストセンター(共産党毛沢東主義派)の 2 つは中国寄り、そしてネパール会議はインド寄りの3 つが主な政党と言えます。中国とインドに挟まれた小国のネパールには、他にも多くの政党があり、連合政権によって大体 2 年おきに中国派とインド派の政権が交代している状況です。しかし、

組み合わせは自由ですので、今の政権は毛沢東主義派とネパール会議の連合政権となっています。 いずれの政権になってもインドと中国を競い合わせ、援助金の争奪戦が政権の主な任務のように 思います。憲法では非同盟中立が規定され、核兵器禁止条約に署名はしていますが、批准は未だし ていません。

今年の滞在は、7 月 21 日から 10 月 7 日までで、ちょうど原水爆禁止世界大会の時期でしたので、ネパール AAPSO と共催で原爆の展示ができないかと事前に思いを巡らせました。そのため、日本から原水協が取り扱っている原水爆関係の写真パンフレットと、兵庫県原水爆被害者団体協議会の副島さんから、「母親が来ていた羽織」をお借りして、持参しました。

ネパール AAPSO もこの時期には、集会を開催しているとのことで、8 月 5 日の集会には、 私にも報告依頼がありました。

当日の参加者は 50 名ほどで、カトマンズのホテルで開催されました。メインスピーカーは、トリブバン国立大学教授の Sabit 先生の話です。先生は、広島・長崎の原爆投下前と投下後の町の様子、ウクライナの戦争被害の様子、ネパールに原爆が投下されたらどう影響があるかなど興味ある内容でした。

私は、「日本は平和なのか」のテーマで、この3月に視察した南西諸島の自衛隊基地の様子、日本の軍事予算倍増の内容、核兵器禁止条約への日本政府の対応などを説明しました。日本から持参した羽織には皆さんの反応がありました。



また、8 月 8 日には、私がボランティアをしている日本語学校でも簡単な説明をしました。ネパールではこの学校だけが毎年、8 月 6 日から 9 日まで、原水爆関係資料の展示とビデオの視聴などを通じて、原水爆禁止を訴えています。ここの先生が2011 年に広島原爆資料館を訪れたことをきっかけに毎年原爆展を続けています。私もこの学校が気に入って、いつも話をしていま



す。今回は約 40 名の学生が 2 時間ほどの説明会に参加しました。この時の説明資料は、先生が独自で作っているのですが、いつもこの内容には感動させられます。

日本の学校で、このような平和学習が行われているのでしょうか。

今後もこうした平和活動を続けていきたいと思っています。

教科書での第二次世界大戦の記述(2023.11) --ネパールで感じた事--

島田 徹(竹の台)

先月の HP でも書きましたが、ネパールのある日本語学校で実施した広島・長崎の原爆に関する授業の報告です。

今年 8 月 6 日の学生への平和授業はもっとわかりやすい内容にしようと思い、兵庫県被団協の方から「母親の羽織」をお借りして、現物を見せながら説明をしました。第二次世界大戦でネパール人はイギリス軍、インド軍の「ゴルカ兵」として参戦しています。アジアではシンガポールやビルマ戦線で戦っており、全体の戦死者は 8,000 人、負傷者は 20,000 人となっています。

(注) イギリス東インド会社とネパール王国(ゴルカ王朝)が 1814 年に戦争をしたときの兵隊のこと。イギリスはその勇敢さに敬意を払い、以降、グルカ兵として雇用する契約を交わし、現在に至る。グルカ兵に雇われれば 10 倍の給料になるので、競争率が激しい。今日、仕事がないネパールでは、ロシアの外国人部隊に入っている人もいるとのこと。

実は、こうした第二次世界大戦について、学生たちの反応がもう一つでした。ただ、広島・長崎の 原爆だけは知っていました。

念のため、私は、第二次世界大戦を教えられている高校 1 年生の社会科教科書を調べました。 そこには、ヨーロッパ戦線の状況や英国から勲章をもらった人達の列挙でした。年表には「広島・長崎への原爆"攻撃"striking」の一行だけの記述でした。

(注) ネパールでは日本の高1相当で卒業するのが 80%。その後 2 年制の学校に行ってから大学に行くのが通常コース。

しかし、学生は福島の原発事故(tunami)のことは知っていましたので、核兵器廃絶の必要性を強く訴えました。ネパールは核兵器禁止条約の署名をしていますが、批准が未だです。中国とインドへの配慮が交錯しているとのことです。いずれにしても早い批准を願わざるを得ません。

ところで、国が違えば、物事のとらえ方が違うことが、 別の場面でもありました。

写真のように、知り合いが私に T-shirts をプレゼントしてくれました。その写真はアフリカ、ヨーロッパ、中東を中心にして、人々が手をつなごうという構図です。ネパールが加盟している南アジア地域協力連合は東からブータン、バング・デディシュ、インド、スリランカ、モルディブ、パキスタン、アフガニスタンの8か国で、中東に傾いています。この写真には東アジアという地域が出てきません。これもネパール人の世界観の一面だと思いました。ヨーロッパ人から見れば、日本は極東の地です。



このように、国が違えば物の見方が違う、相手との共存が 大切ということを日々実感しています。しかし、島国の日本 では、外国は「海外」であり、遙か遠く、多民族、他国との接 触が少ないため、相手の立場を理解することが難しいよう に思います。そのため、「人の命より国優先」「自由・民主主 義」等など、一方的な価値判断を国民、他国に押し付け、排 除する態度は、こうした地政学的環境から生まれてくるので しょうか。

日本国憲法がアジア諸国を侵略した反省から、世界平和 を真剣に希求していることは、新たな世界紛争の時代に入 ったと思われる今日の情勢に見合った、すばらしい最新の



方針だと思います。ロシアのウクライナ侵攻やガザでの紛争を見るにつけ、「人の命を守れ!」「直ちに戦争をやめよ!」「平和的外交!」の声をさらに大きくしていくことが大切だと思います。

非同盟のネパール外交は? (その4) (2023.12) 島田 徹(竹の台)

ネパールに 7 月から 10 月までの滞在中、外交の一面を見る事が出来ました。

ダハル首相は7月にインドのモディ首相と会見し、9月の国連総会に出席し、環境部会では議長として環境問題について先進国の責任を強調し、アメリカとは MCC という開発プロジェクトを協議。その足で中国の習近平国家主席と会談し、一帯一路事業の推進を確認しました。いずれの会談も、「援助」の成果を誇るものでした。メディアは「新首相のパーフォーマンス」「外交派遣団の多さ」を批判していましたが、総じて、「非同盟」であるネパール外交の努力を評価していました。私は日本のアメリカ追随の外交に比べて、したたかな外交に感心しました。

「非同盟」はネパール憲法に明記されていますが、日本国憲法しか知らない私にとって、このネパール外交を通じて、他国の憲法の内容を知る機会にもなりました。



憲法は 2015 年 9 月 20 日「新憲法」として発布されました。当日、この憲法制定を祝う花火が打ち上げられるのをホテルの屋上から見て、歴史的な時点に自分が立っていることを実感しました。ただし、花火と言っても質素で、せいぜい 20 発くらいで、あっという間に終わりましたが、ネパールの発展を祈ったことは記憶に新しいところです。

* 新憲法の制定までの経過:1960~1980 年代までネパール王国の下、政党の無い各層代表によるパンチャーミット体制となる。1996~2006 年毛沢東主義派(マオイスト)と王国派による内戦。2006 年包括和平合意によって 2007 年政党制が復活し、2008 年にネパール国が廃止され、憲法制定議会が発足しました。2015 年に新憲法が制定され、7 つの州によるネパール連邦民主共和国となりました。*

ネパール憲法の条文は政策集のようなもので、国際関係条文は、

【51 条(m)項 国際関係に関する政策: (1) ネパールの主権、領土、独立性、そして国益を守る活動を続けながら、国家全体の利益を考慮して、国連憲章、非同盟、平和 5 原則、国際法と世界平和の規範に基づいた自主的な外交政策を遂行すること。(2) 過去に締結された条約を見直し、平等と相互利益に基づく条約を締結すること。】となっています。非同盟という根本原則と独立した自国の利益という 2 面から外交を進めているようです。

この独立性を押し通す理由は、中国とインドの大国に挟まれながら、双方とは一線を画す事が国 の存続条件なのでしょう。

ネパールの独自性については、形式的にも、①世界唯一の三角形の国旗、②世界時間はどの国も 1 時間単位であるに対して、ネパールだけが 3 時間 15 分と分単位の「中途半端」な時間(日本時間から 3 時間 15 分を引かなければならなく、ややこしい!)などに見られます。このように「ネパールここに有り」と誇示しているところに、「ネパール頑張れ!」の声援を送りたくなる国と言えます。



ネパール

=「はだしのゲン」を考える=

広島市教育委員会 平和教育副教材から削除! (2024.1) 島田 徹(竹の台)

毎年、平和を考えるために「つどい」を開催しています。今年のつどいは 4月20日(土) 西区 文化ホール・なでしこホールで神田香織さんの「はだしのゲンを語り続けて38年、今思うこと」の テーマで、講演を予定しています。

この「はだしのゲン」は昨年の夏、大きな話題となりました。広島市教育委員会が平和教育副教材から「はだしのゲン」を削除したからです。しかもその理由が「コイを盗む内容は教育上不適切だ」。 「浪曲は児童の生活背景に即していない」。この 2 点を主な削除の理由として上げ、現場からも声があると説明しています。しかし、多くの現場の先生からは、ゲンの行動は生活のためのものであり、その背景を子どもたちに考えてもらうことが大切との声も上がっています。(注:年間の平和教育時間は 3 時間) この副教材からの削除の背景には、「日本会議」が削除を求める要請をしていたことが明らかになっています。

また、浪曲を時代遅れとする発想には、伝統文化に対する理解が全くないと言わざるを得ません。講談師である神田香織さんの講演を一日も早く聞きたいものです。

ところで、この平和教育副教材からの削除について、広島の被爆者からも強い怒りの声が上がっています。それは、被爆地広島で昨年5月に開催されたG7で、広島出身をアピールする岸田首相は核抑止力の有効性と核保有を正当化することを世界に発信したからです。唯一被爆国の日本政府が「核兵器禁止条約に全く触れず、核抑止論で戦争をあおり、被爆者の願いを踏みにじった。」(「被団協だより」)ことに、被爆者はこれまで以上に裏切られた思いを強くしました。

8月6日の広島平和宣言でも核抑止論からの脱却を求めています。しかし、広島市は被爆地で行っていることとの矛盾をどう説明するのでしょうか。

特に、ロシアによるウクライナ侵攻で、プーチンは核兵器使用を ほのめかすなどの危険性が高まっている時に、G7は核兵器には 核兵器をという際限のない核兵器競争を助長しています。

戦争をする国づくりにまい進する岸田政権に、核兵器廃絶を訴える「はだしのゲン」の講話を成功させることが、今だからこそ大事なのではないでしょうか。



https://www.nhk.or.jp/gendai/articles/4811/

漫画「はだしのゲン」は、作者の中沢啓治さんが 6 歳の時に被爆した実体験をもとにした作品です。原爆投下直後の広島の変わり果てた街の様子、苦しみ亡くなっていく人々、そして主人公ゲンが戦後の広島を懸命に生き抜く姿が描かれています。

そこに中沢さんが込めたのは、子どもたちに逆境の中でもたくましく育って欲しいという願いでした。

=能登半島地震に思う=

地震列島に原発はいらない! (2024.2)

島田 徹(竹の台)

正月早々に発生した能登半島地震と羽田空港の航空機事故、今年が不吉な年になるようで、暗い思いになりました。ネパールからも心配のメールがありましたが、世界地図上では能登と神戸は 隣町ほどの距離なのでよくわかります。

ところで、「1・17」は私たちにとって忘れられない日ですが、実は、ネパールでは「1・15」が「地震の日」に制定されています。これは 1934 年 1 月 15 日(昭和9年)に起きた大地震は M8.7 で 8,519 人の死者(人口 560 万人)を記憶にとどめるために制定されました。1505 年も M8.7、これ以降はたびたび大きな地震が起きています。最近では、2015 年 4 月 25 日のネパール地震は M7.8 で死者 8,970 人(人口 2,900 万人)となり、世界遺産である古いお寺や山崩れによる村落消滅などの被害がありました。私も同年8月から4か月間ほどネパールに滞在し、地震の惨状を目の当たりにし、阪神淡路大震災と重ねていました。

ヒマラヤ山脈はインドプレートがチベットプレート(ユーラシアプレート)の下に潜り込み、隆起してでき、今も約5mm/年隆起しています。ネパール地震はこのプレートの動きが原因となっており、周期的に起きています。(wiki)

一方、日本列島は、ネパール以上に、ユーラシアプレート、フリッピン海プレート、太平洋プレート、 北米プレートの上にあるため、世界で一番危険な条件にあり、地震大国といわれています。

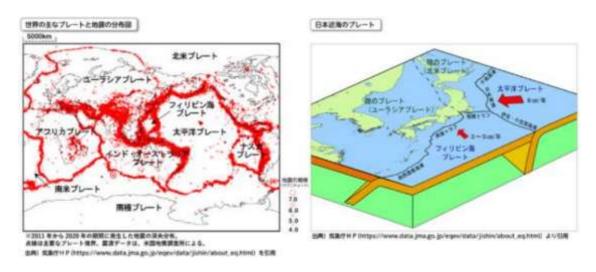
阪神淡路大震災から、日本列島は地震の活動期に入ったといわれ、東日本大震災や今回の能登 半島地震が起きました。特に、南海トラフは100~150年の周期で起こり、今後30年間で起きる 確率は70~80%と政府は想定しています。

私たちが地震に関してよく見る地図は、下図の右側ですが、世界地図上では、左側の図が理解しやすいと思います。「木を見て、森をみない」の諺とおり、政府は目先の断層地図だけを強調しています。

今回の能登半島地震では、西側にある志賀原発が受電設備の故障から油漏れが発生しました。 現在、未稼働なので大きな問題になっていませんが、原子力委員会では、想定外の事故として重要 視しています。「安全、安全」とこれまで国民に原発安全神話を押し付けてきましたが、地球規模か らみれば地震の巣の上にある国というのは一目瞭然です。 政府は二酸化炭素削減目標達成が困難なことから、原発再稼働(原則 40 年を60年へ延長)を 進めています。ヨーロッパもその動きとなっていますが、原発国フランスでは、地震が少なく、高速 道路は地震対策を考慮しない設計となっているようです。地震によるリスクの少ない国と地震大国 の日本での原発を同じように考えることはできません。

また、ロシアのウクライナ侵略で、プーチンはウクライナの原発の電源設備をミサイル攻撃しました。福島原発での教訓をこの戦争で実践したものです。ミサイルで原発の電源を攻撃されれば、原発がメルトダウンし、深刻な被害が生じるのは明らかです。原発は直ちに廃炉処分にすべきです。

今年度軍事費の1/4に過ぎない防災予算を増額し、軍備の準備より平和の準備をすることが、国 民の安全を守る策ではないでしょうか。



神戸市議会で、憲法改悪の「緊急事態条項」推進の動き! (2024.5) 島田 徹(竹の台)

3月25日に神戸市議会で「緊急事態に関する国会審議を求める意見書」(#神戸市議会・意見書)が、自民党、公明党、こうべ未来(立憲民主・国民民主)の賛成で採択され、同日付けで、関係省庁あてに提出されました。「意見書」は地方自治法99条により「議会は、当該地方公共団体の公益に関する事件について意見書を、国会、関係行政庁に提出することができます。意見書の内容は、当該団体の事務に属するものに限りません。また、関係行政庁とは、意見書の内容について関係のある行政機関の意味です。(神戸市議会HP)」

この意見書は大規模災害や感染症流行などを理由に、「緊急事態に対応できるよう関係法令の 在り方」について国民的議論の促進・喚起を国に求めるものです。

市議会で、共産党がこの意見書の「関係法令」に「憲法が含まれているのか」との質問に、公明党は「意見書には『地方自治法改正』とも『憲法』とも書いてない。心配はない」、こうべ未来は

「権力悪用の可能性はあると思うが、それは国会で議論することだ」と無責任な回答をしています。一方、維新は意見書に「憲法に緊急事態条項の明文化」の挿入を主張して反対しましたが、一層の改憲・戦争国家づくりを後押しています。

自民党の改憲案は「緊急事態条項を憲法に挿入する」ことであり、特に、コロナ事態を契機にこの論議を加速させています。緊急事態条項は、国民の人権を制限し、内閣に強力な権限を集中させるものです。そもそも、自然災害や感染症などの緊急事態への対応は、これまでどおり、災害基本法や感染症特別措置法などによって、十分対応できるものです。

自民党の「緊急事態条項の挿入」論議を加速させるために、全国の地方議会では、同様な趣旨の 意見書が採択されています。内容は「憲法改正」の表現であったり、神戸市議会のように「関係法 令」とぼかしています。

こうした動きに呼応するように、4 月 11 日の衆院憲法審査会で、自民党は「緊急事態条項を挿入した憲法改正の条文案の起草委員会の設立」を主張しています。これに対し、公明党は「たたき台を作成し、議論を深めていくべきだ」と同調。日本維新の会と国民民主党も賛成の立場。立憲民主党は難色を示し、共産党は反対しました。

このように憲法改悪の中央政治の動きは、地方議会での動きと連動しているのです。

西神 NT9 条の会は日本国憲法の平和主義、基本的人権、国民主権の精神を私たちの暮らしに生かそうと、様々な課題を取り上げて活動しています。今回の神戸市会における「緊急事態に関する国会審議を求める意見書」の採択が、憲法改悪への動きを加速させているのです。私たちも国政の動きだけでなく、足元の県会、市会での各党の態度にも注意を払うとともに、地方議会への運動も強めていく必要があります。

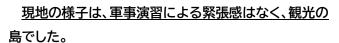


「台湾有事?」の台湾・金門島を訪問して・・・ (2024.6) 島田 徹 (竹の台)

5月 22 日~25 日まで、日本 AALA(アジア.アフリカ.ラテンアメリカ連帯委員会)主催の「平和のための市民交流の旅・A コース」に参加し、台湾・金門島を訪問しました。昨年3月、日本・南西諸島のミサイル基地化の実態を「平和の旅」で視察しましたが、与那国島から 110キロに位置する台湾を訪問したいとの参加者からの声もあり、それに応える今回の企画でした。参加者は関空発組 13 名、羽田発組28 名の計 41 名。

5月20日に頼 清徳総統が就任し、その就任演説で「中華民国と中国はお互いに隷属しない」としたことに対して、中国政府が「台湾独立のたくらみへの懲罰」として、22~23日の2日間、軍事演習を行いました。私たちは、22日に台北に到着し、24日に金門島(淡路島の1/4面積、中国アモイから約10和、台湾本島か

ら約 200 和、人口約6万人、1949 年以降、蒋介石の中華民国軍の統治下)でしたので、まさに「台湾有事?」最中の訪問となりました。日本でのメディア報道?に、参加者の家族から心配の電話が旅行会社に数件あったそうです。



金門島のガイド(許翼軒シュイ・イーシュエン)は 31 歳の若者。彼は、台北の大学卒業後、琉球大の交換留学生として 1 年間、その後、金門島に戻り、今は若者の起業家活動を支援

しています。今回のガイドの仕事は日本の友人に依頼され、<総統府には「慶祝中華民国第一六任総統就職」の飾り> 初めての体験とのこと。どのような質問にも答えられる

ように事前勉強したとのことでした。参加者は「若者が今の台湾をどのように思っているのか」に興味深く、多くの質問が出ました。 彼からは個人的見解との前提で、率直な ***アモイの建物**> 感想や回答があり、参加者は彼の博識ぶりに驚かされました。

彼は、「今回の演習はいつもの演習で、中国が攻め込んでくるとは思っていない。どこで演習が行われたかは軍事機密でわからない。町の様子は普段と変わらない。戦争は武器より、情報戦と経済戦で、すでに始まっている」。実際、私たちは金門島の中心街を散策しましたが、普通の観光地で、反共的や国防意識向上などのポスターは見かけませんでした。台湾有事?の最前線ともいわれる金門島には、軍事的緊張感というものはなく、平和な







観光の島という印象でした。(中国本土の厦門(アモイ)が見える岬まで行きましたが、雨のため見えませんでしたので、1 週間前に旅行者の方が下見をした時のスマホの写真を見せてくれました。)この金門島の体験は、日本のメディアによる「危機感」創出によって、実態とはかけ離れた認識をもたすよう、情報操作されている恐ろしさを実感させてくれました。

ところで、彼への質問に「①:今、立法院(国会)周辺で若者の集会が報道されているが、その内容は何か、②:10年前のひまわり運動(2014/3·18立法院占拠)と関係あるのか」がありました。 彼は次の様に回答してくれました。

- ① について「国会の権限を強化する法案で、個人の意見を聞かなくてもいいような手続的公正さに問題がある。第 1 党の国民党と第 3 党の民衆党が共同提案で可決しようとしている。反対する若者を中心に集まっている。
- ② について、「ひまわり運動は 10 年前、中国とのサービス貿易協定をめぐって、学生が立法院を占拠した。「台湾を独立国家」と考える世代が多いことを示した。その流れが今もあるが、先日の国会議員選挙では国民党が 52 議席、民進党は 51 議席、民衆党8議席(全議席 113)となり、民衆党がキャスティングボート。頼総統は民進党で立法院の運営は難しい。若者は必ずしも民進党ではなく、自分の考えで動く」との説明。

なお、ひまわり運動の時、彼は大学3年生で、デモ参加は教員によって、「出席とみな す」「欠席とみなす」「デモ周辺で授業をした」等で対応はいろいろだった。

(注)立法院改革案は立法院の権限強化で、立法院が団体・個人に資料提出を求めた際、拒否すれば 罰金刑に処すとの規定。人権侵害に当たると民進党が反対。3 回目の採決は 28 日。

<日本の特定秘密保護法の逆バージョン? >

ホテルに戻ってのテレビでは、中国軍 提供の軍事演習の様子が映し出されてい ましたが、どうも日本のメディアと同じよ うに、「危機感」を過大に煽っているよう でした。NHK も同様な報道をしていまし たが、現地人のインタビューでは、「普通 の生活ですよ」との声しか映せなかったの は、それが現地の声を代表しているから だと思いました。この後、立法院や集会の ニュース。



<ホテルの TV でのニュース(軍事戦略の件、民衆立法院集結)>

ガイドの許さんの「平和であるためには、隣国との交流を強めることや、台湾のように世界に貢献できる産業(IT 産業)を育成することが自国の防衛につながる、日本にはこれまで自動車などがあったでしょう!」との発言に、日本の今後のあり方を示していると参加者一同、感動しました。 (7月 HP は、訪問全体の内容を掲載予定) (雑感)

機上での話 == SDGs は先進国のエゴ! == (2024.7) 島田 徹(竹の台)

例年のネパール行きですが、6 月 4 日、ネパールへの機上での話です。

隣席の方が「あなたは日本人ですか」ときれいな日本語で尋ねてきました。相手も私がどこかの アジア人だと思ったのでしょうか、「はい、日本人です」と答えたところ、相手の方は、マレーシア 人!でした。

日本語が話せるのは、日本に 30 年ほど住み、妻は日本人だから。今はマレーシアに住んでいる。現在、56 歳で、20 歳の時、国費で日本の大学に留学し、東京の銀行に勤めた。妻は同級生の日本人。日本に行く時、当時の首相から、日本の文化、日本人の態度などを勉強するように言われた。今は、マレーシアの銀行で日本企業や外資系の企業の投資相談を行っている。あと 4 年で 60歳になるが、早く退職したい。

以上が彼の紹介ですが、彼も話好きで、私のいろいろな質問にも丁寧に答えてくれ、クアラルン プールへの 6 時間もあっという間に過ぎてしまいました。

この中で、興味ある話をいくつか紹介します。

(円安、株高について)

今の円安と株高は矛盾している。株高は外国からの投資による株高で、日本経済の力を示していない。日本経済は衰退し続けている。

米国はドルの金利を上げて、諸国とアメリカとの金利差が広がっている。ドルだけが高くなっている。我々も利率をあげたいが、そうすると自国の企業の成長を阻害するので出来ない。そのため、我が国は金利のいい米国への投資と米国国債を買っている。従って、相対的に他国の貨幣価値が下がっている。米国の一人勝ちの経済状況になっている。

(島田注)・・ちなみに、日本円とネパールとの為替レートは、ほぼドルの相場に連動しており、昨年までは、1 円:1Rs ルピーだったのが 1、今は1円:0.85Rs となっています。ネパールで同じものを買うのに、15%増の日本円を払わなければなりません。今回の飛行機代も 12 万から 14 万円になりました。本当に円安が年金生活の私の生活を直撃しています。(笑い)

なお、インド Rs とネパール NRs は 1:1.6 の固定相場制で、インドの相場に連動していますが、結局、アメリカドルに左右されることになります。・・

(SDGs について)

気候変動への対策が世界的課題となっている。銀行は、昔は企業の成長力でお金を貸していたが、今は違う。環境配慮などの努力がなければ、お金を貸せない仕組みになっている。世界銀行も同じ。これは先進国の横暴で、後進国は、費用負担が大きくなって、経済成長が図れなくなっている。「安くて経済成長をしたい」のが我々の希望だ。SDGs(環境持続可能な開発目標)と先進国は言っているが、アフリカ、アジアの成長を遅らすための戦略だ。後進国はますます成長が出来なくなるような仕組みが作られてきている。先進国のエゴだ!。中国は、一定の力があるので、先進国の規制は無視している。我々も無視したいが、圧力が強くてできない。本当にコストが高くなっている。

(その他)

人種差別について、日本ではあまり感じられない。アメリカ、ヨーロッパではアジア人に対して差別がある。

日本人はおとなしい。韓国は、少しでも仕事が遅いと急がされる。中国も同じ。インド人は、頭がいいが、議論ばかりで、前に進まない。インドは決して、中国を抜くことはできない。

年 2 回、日本に行っている。妻の里帰りと仕事。マレーシア国民は英語ができる。それは以前、 イギリス領土だったからだ。やはり、英語が出来るのは国にとって強みだ。

ネパールのゴルカ兵(1814 年にイギリス軍と戦い、その勇敢さが認められ、今もイギリス軍、インド軍にゴルカ兵部隊がある)は世界的に有名だ。東南アジアでは、セキュリティの関係の仕事はほとんど「ゴルカ」ではないか。自分のマンションの警備員もゴルカである。

このような話がいろいろありましたが、特に気候変動について、ネパールでは深刻な打撃を

受けています。氷河の消滅や集中豪雨による山崩れ、そして洪水や干ばつなどで水力発電の稼

働率が毎年低下しています。ネパールにとって、水力発電だけが産業と言えます。気候変動の国連の会議では、ネパールの首相がいつも議長として、先進国の支援の強化を訴えています。

今、ネパールは雨期ですが、カトマンスでは、雨がほとんど降らず、 私の部屋の水道は家主が止めてほとんど出ません。トイレの水もまま



ならず、また、顔はコップ 1 杯で目だけ洗っています。まさに、水一滴との戦いです。このようなことは初めての経験です。それでも生きていくネパール人のたくましさに感動しています。(笑)

(雑感 その2)

ネパール ・・日常茶飯事の政権交代?・・ (2024.8)

島田 徹(竹の台)

何度か、この HP で述べてきましたが、ネパールは中国とインドの超大国に挟まれ、双方の国との関係をどのようにするかは、宿命的な課題です。2015 年に制定された憲法には「非同盟中立」が明記されています。この外交的ルールはゆるぎないように思います。今日ではこの中国、インドに加えて、アメリカが影響力を強めています。これまでアメリカはネパール王国や、ネパール内戦の時、政府軍に援助してきた経緯もあり、アジアでは、一番大きな大使館を持っています。しかし、今日、米国は中国包囲戦略として、地政学的もネパールを重要視しています。

ネパールは、これらの3つの国の戦略的援助に対して、「食い逃げ」的に対応しています。その点では、これら3国を手玉に取った外交のしたたかさには驚かされます。

しかし、ネパールの政治には、問題点があります。

2008年にネパール王国から共和制になってから、今日までの16年間で、5~6 党による連立 政権交代が 10 回以上となっています。

私が遭遇した2022年11月の総選挙(任期5年)では、①ネパール会議派(インド国民会議派)、② 統一共産党、③マオイスト(毛沢東主義センタ)、の 3 つがそれぞれ、①89議席、②78議席、③32議席で、3 大政党となっています。その他諸政党は76議席で、合計276議席です。 (この詳細は、2023年1月HP参照)

特に③がキャスティングボートを握っているのがこの国の特徴です。

選挙前は①+③で①が首相。22 年 11 月の選挙後は、②+③で③が党首、2 回目は①+③で③が首相、この 7 月 17 日からは①+②で首相は②となり、すべての組み合わせが完了しました。(笑い)。この 2 年間で 4 回も新政権が誕生したことになり、新聞のネタにもならないようです。

確かに、新しい政権が誕生すると、大体、中国、インドや米国から新たな援助が追加されるので、 ネパールの政権交代劇は戦略的政権交代かとも考えられますが、実態は、政策抜きの政権の奪い 合いのように映ります。

この一方で、内政問題としてさまざま課題がありますが、一向に改善されていません。

私の身近な問題では、水問題です。60k離れた所からのカトマンズへの水道敷設工事。5年と言われたものが、30年経っても完成していません。この10年間、「来年には完成する」と聞かされてきましたが、まだ完成していません。私のいるアパートは水制限のため、トイレ、洗濯で困っています。道路建設では、山を削って道を付けるだけですので、毎年、雨期には道が崩れ、山崩れとなって、洪水が発生し、唯一の産業である水力発電所への被害が増加しています。

また、産業の問題もあります。インフラが脆弱で、産業が育たないため、働く場所がなく、多くの若者は外国に出稼ぎに行っています。ネパールの昨年の GDP に占める海外からの送金は22%で、他国と比較しても異常な高さです。日本の外国人労働者 205 万人(2022.10)のうち、ネパール人は、ベトナム、中国、フィリッピンに次いで、4番目 145,000 人となっています。日本への出稼ぎは他国に比べて一番行きやすい国ですので、前年比 23%の増加率で、ネパールでの日本語熱は高まっています。

ネパール政府は出稼ぎを推奨せざるを得ない状況ですが、海外に出稼ぎに行った若者は戻ってきませんので、国にとっても大きな問題となっています。

このような国内問題に進展がないのは、短期政権の伝統?に原因の一端があると思います。

短期政権のため、大臣や議員は「汚職?」に力が入り、道路建設予算の 3 割しか現場に回らないと言われています。毎年、私の周辺の歩道は、掘り返されています。基礎をしっかりせず、敷石の煉瓦を並べるだけですので、6 か月もすると凸凹です。足をくじきそうになります。しかし、このようにしないと外国援助が受けられないと知人が言っています。

ところで、私が気になるのは、3 大政党の理念です。ネパール会議派はインド国民会議派の延長で、反共産主義的です。統一共産党とマオイスト(毛沢東主義センタ)は共産党を名乗っていますので、理念が違うはずです。しかし、政権の枠組みとなると、理念とは関係なく、外国援助=国家のために?柔軟に対応する事が、お互いの不文律となっているのでしょうか。

ところで、日本の政権も自民党政権から、今後は各種政党による連立政権になると思います。各政党がどんな社会を目ざしているのか、はっきりせず、目の前の課題についての議論だけで、政権党との結びつきを強めています。政党の「理念」というものが分かりません。理念がなくてもいいかもしれませんが、目先の課題への態度だけでは、様々な課題に対する一貫した対応をとることができず、国民の期待を裏切ることになります。たとえば、ウクライナ、ガザ問題など、特に平和問題について、どの政党も「平和」を掲げていますが、どのように戦争をしない平和を作っていくのか、その平和についての理念がよくわかりません。

ネパールの政治を見ていて、外交姿勢だけは安心できます。日本はアメリカ、中国、ロシアに囲まれた国ですので、このネパールの外交姿勢を日本の政権党は見習うべきではないでしょうか。

なお、掲載写真は、ある日本語学校のイベントに招待されま したので、その会場に原水禁パネルを展示させてもらいまし た。イベント終了後でしたので、人がいません!(残念)



(雑感 その3)

8月9日「長崎の日」 (2024.9)

島田 徹(竹の台)

例年、夏の頃はネパールで日本語学校のボランティアをしています。原爆の日には何らかの取り 組みを行い、今年も展示パネルと原爆のことを学生に伝えました。また、ネパール AAPSO(アジア アフリカ連帯委員会)の行事にも参加しました。

まず、私の日本語学校ですが、10 人ほどの教室が一つです。 これまで日本人向け旅行会社でしたが、コロナ以降、今は円安の 影響もあり日本人旅行者が来ません。私も日本人を見かけなくな りました。事務所を改造して日本語学校への業種転換で、学生も 6 人からのスタートです。日本語学校の教室に展示用の写真(平 和委員会から 1 組 3000 円で事前購入して持参)を掲示し、そ の説明を行い、黙とうもしました。学生は広島、長崎の原爆のこと は知っていますが、第 2 次世界大戦のことはほとんど知りませ ん。ネパールの教科書にはヨーロッパ戦線での勲章受章者の写真



が載っているくらいで、アジア太平洋戦争のことはほとんど記載がありません。英軍・インド軍の「グルカ兵」として日本軍とたたかい、2万人の死傷者だったためでしょうか。また、一昨年に訪れた長崎原爆資料館の話、原爆目的地が私の古里の小倉で、天候不良のため長崎に落とされたこと、今ウクライナやガザの人々が戦争で苦しめられている、世界から戦争をなくすために何ができるか、考えようと話しました。

午後からは、近くのホテルで AAPSO の集会があり、150 人ほどの参加者でした。ホールの壁には同じ展示パネルが貼っ てありましたが、古い分で、昨年私が渡した核兵器禁止条約の 現状写真が 4 枚貼ってありました。今回は、原爆ドームのロゴ がついた帽子を10個プレゼントしたら、スタッフがさっそくそれをかぶってくれ、又、昨年プレゼントしたシャツも着ていました。

講演者は昨年と同じ方で、Dr.Moti Sharma 氏、「もしもネパールに原爆が落ちたら」のテーマ。私の隣に座った女性は、名古屋大学で5年間、博士課程を修了した方で、日本語が少しできましたので、ほっとしました。



私の挨拶は、昨年は、南西諸島の軍事基地化のスライドでしたが、今回は、長崎原爆の日でしたので、私の母親の「小倉に原爆が落ちなくてよかったね」の話にしました。原爆は他人ごとではなく、世界からなくすためにお互い頑張りましょうと訴えました。女性の先生が「よかったです」と言ってくれたのが、せめての慰めでした(笑い)。

ノーベル平和賞は日本被団協に! (2024.11)

島田 徹(竹の台)

今年のノーベル平和賞は日本原水爆被害者団体協議会が受賞しました。被団協として、毎年、ノーベル平和賞の落選情報に落胆を重ねてきただけに、今回の受賞は本当に感激の受賞だと思います。

授賞理由は「核兵器が二度と使われてはならないことを身をもって示してきた」「核タブーの確立 に大きく寄与してきた」という事でした。この草の根の運動こそが核兵器禁止条約の成立をもたら したと言えます。

石破新内閣が「核の共有」「核抑止論」を主張し、また、ロシアやイスラエルが侵略戦争の中で、核 兵器の使用に言及するなど、世界に新たな核兵器使用の危機が迫ってきている時の受賞でした。 平和を守る運動をしている私たちにとっても、大きな励ましとなりました。

おりしも、10 月 27 日投票の衆議院選挙が実施され、その公報やビラを通じて、改めて各政党の平和に対する立場が鮮明となりました。多くの党が「日米同盟は基軸」「日米同盟の一層の深化を図る」など、日米軍事同盟の強化を主張していました。これでは軍事対軍事をあおり、平和を構築することはできません。この「日米同盟は基軸」の前提には「核抑止力が必要だ」の考えがあります。日本被団協は核兵器禁止条約に背を向ける日本政府に対して、何度も「核抑止論で戦争をあおり、被爆者の願いを踏みにじるもの」「核兵器の廃絶は最優先課題だ」と批判してきました。この核抑止論

の行先は、戦争する国づくりの法制度として「安保法制」となり、その具体的指針として、2022 年の「安保 3 文書」につながりました。安保法制での市民と野党の共闘の出発点は、政党の理念や政策が違っていても「安保法制の廃止」「立憲主義回復」という一致点で、候補者の一本化などがありました。しかし、このことを無視するならば、「安保 3 文書」に基づく軍事同盟強化=戦争する国づくりに正面から立ち向かうことができないのは明らかです。特に、今回の選挙のなかで、集団的自衛権容認の維新の会と共闘関係を作ろうとした立憲民主党の野田党首には驚かされました。これは、日本被団協としても納得できない行動だと思いました。



兵庫県被団協の副島氏から母親の被爆着物をお借 りし、ネパールで展示した

しかし、今回の総選挙で自公政権が過半数割れとなり、野党第一党として大きく躍進した立憲民 主党には、改めて「安保法制廃止、立憲主義回復」に向けた努力をして欲しいと切に願っています。

(雑感)「平和」という言葉 (2024.11)

島田 徹(竹の台)

「兵庫の語りつごう戦争展」で山本昭宏 准教授(神戸市外国語大学)の「変容する平和主義」の講演を聴いた。

要旨は「戦後の『平和』という意味が、時代とともに変遷し、今では 軍備増強のための意味=言葉にすり替わっている」という指摘であった。

講演の内容は・・・近年の「戦争と平和の関係」では平和のための抑止力増強の議論が目立つ。「平和」という言葉が今、どのように使われているのか。「平和のための安全保障政策」が支持を得ている。一方の陣営は平和のための「安全保障・防衛政策批判」に終始している。憲法に基づく平和主義は、安保3文書が示すように、有名無実化してきている。「平和」の内実を問い直すためには、憲法の理想を意



識しながら世界認識へ。そして「民主主義から平和」へ・・・との講演であった。後段の部分は理解が 及ばなかったが、納得のいく指摘が多かった。 先生が朝日新聞からロシアによるウクライナ侵略についてのインタビューをうけ、「他国への侵略は許されない」と評論したところ、ウクライナの NATO への接近が問題とのバッシングがひどかった。「これは平和主義のとらえ方の変遷の一面である」と。そして、この状況から抜け出すにはもう一度、「憲法前文の精神から出発した『平和』にしなければならない」との指摘は、私にとって大きな励ましとなった。

というのは、一昨年、南西諸島での軍事基地増強の実態視察に行った。そこでは自民党他、日米 軍事同盟を日本の基調とする政党の「アジアと平和」というポスターを多く見かけた。又、当会の「1 の日行動」でもビラを配る時、「中国、北朝鮮、ロシアを見ろ!日本も軍備を持たないと平和が危な い!」という人が増え、「平和」が「相手側のもの」になっていると感じている。「平和」という言葉は 戦争準備のための「平和」に完全に置き換わっている。

憲法前文の「全世界の国民がひとしく恐怖と欠乏から免かれ、平和のうちに生存する権利を有することを確認する」を読むとき、日本の為政者に、ウクライナ、ガザでの人命の犠牲はどうなのかと問いたい。

山本先生は、安倍元首相に代表される「積極的平和主義」との主張に対して、「護憲勢力がいつも『平和と民主主義』と言ってきたが、『平和』が前面にくると相手側と同じ土俵になって、バッシングが激しく、議論にならない。『民主主義のための平和』という風に、切り口を変える必要があるのではないか」「私たちがどのような世界に行きたいと思うのか、そのために何をするかを意識する必要がある」との指摘が心に響いた。私たちも情勢の変化に応じて、憲法前文の意味を伝える「平和」という言葉を使う努力が必要だと思った。

神戸市長は非核「神戸方式」を誠実に守れ! 「非核証明書」のない米艦船の入港に抗議する! (2025.4) 島田 徹 (竹の台)

3 月 24 日、核保有国である米国海軍艦船「USS WARRIOR(ウォーリア)」が神戸港・摩耶埠頭に入港しました。非核証明書の提出を求める非核「神戸方式」によって、50 年間、米艦船は入港していませんでした。今回の入港について、当会として市長に要請文・抗議文を提出するなど行動を行いました。この間の経緯などを以下にまとめました。

1 神戸市の「根拠のない理由」

今回の入港に際し、神戸市は①日本政府(外務省)が「核兵器を搭載していないことにつき、わが国政府として疑いを有していない」旨の見解があったこと。②「米国総領事と港湾局が会談し、日本

に入港する米国艦船には核兵器が搭載されていな い旨の説明があったこと」を「総合的に判断した」と して 21 日に入港許可を行いました。

しかし、②について、3月14日、米総領事は「非 核証明書を提出しない理由について、個別の艦船 の核兵器の搭載については言及しない」(神戸新聞 3/25 日付)としており、「非核証明書が出せないの に、なぜ核兵器非搭載と言い切れるのか」との批判 には答えていません。



(ウオーリア) 神戸新聞 NEXT3/24 夕

1975 年 3 月の神戸市会で「核兵器搭載艦船の神戸港入港拒否に関する決議」が全会一致で採 択されました。この時期は、日本が非核 3 原則(持たず、作らず、持ち込ませず)があるにもかかわ らず、ラロック元提督の証言によって、米艦船による核兵器持ち込み疑惑があった時期です。この 決議に基づき、神戸市は行政措置として「非核証明書の提出義務化」を求めてきたのです。

表にあるように、決議以降 50 年間、これまで神戸港に入港した外国艦船は8 か国 22 隻。米軍 艦船は一隻も入港していません。他の核保有国(フランス、インド)や非核保有国の軍艦は「非核証明 書」を提出し入港しているのです。チリやインドネシアの練習帆船はヨットより大きい程度のもので すが、非核証明書を提出しています。港湾法では「不平等扱いの禁止」(13 条)が定められており、 米軍だけ特別扱いすることは、今後も同様な扱いになる可能性があります。なお、非核証明書の提 出がなかったのは、1998年5月にカナダ海軍の補給艦が「非核保有国の艦船」として海上自衛 隊阪神基地に入港したのに続いて、このウォーリアが2度目となります。

このような実態を見ると、「政府が核兵器の搭載に疑いを有しない」などの回答を「非核証明書」 とみなすことは到底認められません。

2 非核「神戸方式」の意義

非核「神戸方式」は国是である非核3原則を住民と行政が厳格に守ってきたもので、決議後米艦 船の入港がないことは、艦船に核を搭載している疑いを強くするものでもあります。港湾権限が地 方自治体にある以上、住民の命を守る自治体としての責務が問われるものです。

核兵器搭載艦艇は敵の攻撃の目標となりやすく、平和な港が危険な港となってしまいます。港 湾労働者や市民も巻き添えになります。戦前、空襲で死亡率が一番高かったのは神戸大空襲で、そ れは軍需工場があった為でした。平和な港でこそ、住民の命を守ることができます。 ところで、海外でも非核「神戸方式」が注目されています。

ニュージランドでは核兵器搭載艦艇拒 否の「非核法」を1987年に制定しました。また、国連NG

Oミレニアム・フォーラム(2000/5)の最終宣言で採用された部分は「艦艇が核兵器を積載していないことを証明しないならば入港を拒否するという沿岸部の措置によって補強されるべきである」です。

3 米軍、大企業にとって神戸港の重要性

神戸港には、国内唯一の潜水艦の建造・修理工場(川重、三菱)があり、川崎重工は航空機関係もあるなど、防衛産業の中核的大会社が揃っています。米軍にとって戦艦、ヘリコプターなどの修理が行える重要な港です。また、朝鮮戦争時には特需で大儲けをした企業にとっても米艦船の入港は大歓迎です。しかし、「朝鮮戦

これまで神戸港に入港したすべての軍艦が非核証明書を提出

	入港年月日	E 8	(I) II	据 技		
	75.3.18 核兵	75.3.18 核兵器積載鑑疑の入港拒否の市議会決議				
	75.4.17~20	☆クアベル	カナダ	護衛鞋逐艦		
75.4.17~20	☆マッケンジー	カナダ	1)			
	75.4.17~20	☆サスケチワン	カナダ	11		
75.89~14 76.528~6.3 78.1.10~13 78.1.10~13 79.109~13	☆ブリスペーン	オーストラリア	能逐艦			
	76528~63	カアミラルシャルネル	フランス	フリゲート製		
	781.10~13	☆シャクティ	インド	補給監		
	781.10~13	☆カランジ	インド	潜水艦		
	79.10.9~13	☆アルディート	イタリア	経済器		
/	79.10.9~13	☆ルポ	イタリア	護衛鞋逐艦		
- ///	808.11~15	☆ベラ	インド	潜水艦		
///	8123~10	マジャンヌダルク	フランス	ヘリ空母		
++-\//	8123~10	オフォルバン	フランス	護衛駆逐艦		
81.8.21~24	81.8.21~24	☆スワン	オーストラリア	龍蓬展		
	82.10.8~10	☆バグシャー	インド	潜水艦		
99	831.30~23	☆カールスクローナ	スウェーデン	孙器展		
	83.10.29~11.2	☆エスメラルダ	チリ	練習帆船		
国 \	87.52~6	☆エスメラルダ	チリ	特別報報		
	03.9.16~20	☆サングラム	イント	巡視船		
	10.11.29~12.3	オヴィシュワスト	イント	巡視船		
	16.5.6~10	☆ランキン	オーストラリア	潜水艦		
	19.823~26	☆ピマ・スーチ	インドネシア	独客机 能		

争時には神戸港は米軍の出撃拠点となり、戦車や 2 万人を超える海兵隊が戦地に向かいました。」 「神戸港の米軍基地の全面返還は1974年です」(港湾共闘 谷口前議長)

今日、米軍は民間港の軍事利用に向けた地ならしとして、補給や友好親善などを口実に全国の港湾への入港を繰り返しています。姫路港には3回入港しています。神戸港については、自民党などは阪神淡路大震災の際に米軍空母インディペンデンス派遣計画があったが、救援できなかったのは非核神戸方式が原因と攻撃しています。

このような中、ウォーリアが入港した 3 月 24 日には、陸海空の3自衛隊を一元的に指揮する「統合作戦司令部」が創設されました。これは安保 3 文書に書かれており、米軍指揮下に組み込む「日米統合司令部」に向けた動きです。また、1975 年 3 月 18 日の市会決議から 50 周年の節目であり、これらの日に合わせた露骨なウォーリア入港となりました。

4 入港情報の虚偽報告

神戸市は3月19日に日本共産党市議団が申し入れを行った際、「3月17日に入港申請があり今回のような急な申請は異例」としていました。しかし、2月18日には阪神港長から神戸港湾局長に「米艦船入港」の通知があり、3月7日には市長から外務省に「ウォーリアの入港照会」をしています。組織ぐるみで、虚偽の報告をしたことになります。このような市の態度は日米同盟の名の下、市長自らが住民の民意を踏みにじり、地方自治を破壊する行為ではないでしょうか。

5 当会の動き

・3 月 19 日 米艦船の入港情報を ML 宛メール /対応についての意見を要請

神戸新聞 NEXT の記事(19 日 PM9)を添付

- **昨年6月のつどい学習会で神戸港湾共闘の谷口氏から「港の軍事利用と非核神戸方式」の話を聞きました**
- ・3 月 20 日 運営委員会の多数のメンバーから、神戸市長への「入港に際し、厳格に適用せよ」との要請文について賛同を得たため、FAX する。
- ・3 月 21 日 プレ憲法集会(2)で、「非核証明書のないまま、神戸市長はウォーリアの入港を許可した」との報告があり、その旨 ML 宛にメール。
- ・3月22日 当会としての行動確認
- ① 現地での抗議集会に参加(有志)する
- ② 市長への抗議文を FAX する
- ③ つながり4月号の表面と4月HP に入港反対の記事を掲載する
- ·3月24日
- ① 市役所前 8 時~ 宣伝行動(2) 市議会経済港湾委員会への傍聴
- ② 9 時~摩耶埠頭で抗議集会(1) ウォーリア着岸付近
- ·3月23~26日

西神中央駅前等での各団体の宣伝活動などに参加(有志)



<平和のみみ(美海)ちゃん>

2007年中華総商会に「非核「神戸方式」の記念碑が 市民の募金で建てられた。台座には、英語、中国 語、韓国語が書かれている。「海からの平和のメッセ ージを聞く少女」の像。

6 メディアから学ぶ

神戸新聞 25 日付朝刊の記事は「市は『今後も決議を尊重する』と呼びかけるが、今回のケースは 証明書がないまま入港した 2 例目となり、一部の市民や市会議員は形がい化を危惧する」となって いた。国是である非核 3 原則を日本で唯一守っている神戸市民の平和への熱意がどうして一部だ けのものなのでしょうか。大勢は賛成している事を暗に印象付けるような記述です。

確かに、私たちは憲法 12 条に「国民に保障する自由及び権利は、国民の不断の努力によって、これを保持しなければならない。」とあるように、「不断の努力」をしなければ、憲法がいかようにも解釈改憲されていく可能性をこの間、実感してきています。平和憲法の実態がなくされているのが既成事実化されてきています。今回の悔しい経験をバネに、当会の目的である「憲法をくらしに生かす」ためには何をしなければならないか、はっきりさせていくことが必要だと思っています。



ネパールからナマステ! (2015.9)

島田 徹(竹の台)

今春に退職し、10月に1か月ほどの登山計画があり、ポーターと話ができるようネパール語の学習も兼ねて6月末に出発した。

地震の被害状況は古い建物(主に歴史的建造物)の被害が多いが、カトマンズは新しい家が多いので日常生活に支障をきたしている様子は見受けられない。旅行会社の人は、今は雨



期でお客はいないがこの秋のシーズンが心配だと言っている。観光に行って彼らの生活を守ること が最大の援助だと思う。

生活状況であるが、計画停電は1日に3-4時間の停電が各2回ある。土曜日が日本の休日で、日曜日から一週間が始まる。私のホテル近くに大きなスーパーがあるが、日本のスーパーと全く同じく、食品から家電製品まで何でもある。生鮮食品(冷凍食品から何でも)の値段は日本の半分以下だが、その他は日本の値段とほぼ同じで割安感はない。例えば、焼きそばは180円、コーヒーは40円。日本と同じようなシャツの下着は1000円もした。どうも食べていくには問題がないようだ。給料は銀行員で4000円。教師35000円、普通の人は25000円くらい。家はどこでも煉瓦作りなのでしっかりしている。これまで3人の自宅に招かれた。日本通の人は日本の家は木と紙でできていると笑っている。今回の地震で民家が壊れたのは、50年以上前の古い家が主である。(カット写真はビムセンタワー)

ネパールで有名なのは、「ネパールバンダ」という「ゼネスト」である。この2か月で3回体験した。大体、2日間は交通機関が全面ストップするので、会社、学校などは休みだが、日常生活は普通だ。多数の政党(100民族ほどあるので民族政党が多い)があるが、連携して行っているようだ。要求の一部として、20年以上のタクシーの使用禁止に反対。中国とインドとの協定に関して反対などなど。よくわからない。

私は今、ボランティアで小学校の10歳の子に日本語を週3回教えている。ネパール語の勉強も兼ねてなので非常に面白い。最近は歌唱指導まで行い、皆の笑い?を得ている。(次号に続く) (筆者はアマチュア登山家。この半年ほどネパールに滞在するそうです。編集委員)

ネパールから翁長知事に激励のメール(ネパールだよりその2)(2015.10)

島田 徹(竹の台)

その1

私のホテルにオーストリア人が宿泊した時、日本のことが話題になり、彼が沖縄県に行きたいというのだ。彼の父親が仕事で日本行ったとき、沖縄が一番きれいで感動したそうだ。彼は今上海で仕事をしており、中国の環境破壊がひどくて、今回ネパールに休暇で来たとのこと。彼がパソコンで沖縄県のWEB



を私に見せた時、軍事基地が記載された地図があったので沖縄の事情を説明すると、「NO'TGOOD」と言っていた。また、彼はオーストリアの自然の美しさを説明してくれた。後日、辺野古の自然を守る翁長知事にこのエピソードを託し、激励のメールを送りました。

その2前回、学校のことを書いたので教育制度について

ネパールでは小学校が5年、中学3年(ここまで義務教育)、高等学校が2年となっており、国際的に 大学入学には2年不足するので「10プラス2」と言って2年間の追加学年制度がある。

10年目の卒業試験が「SLC」と言って合格率55%の厳しいものだ。ほぼこの成績順位で就職先や大学入学学部などが決まる。大学進学率は10%未満である。従って、学校も公立より質の高い私立学校への入学希望者が多い。授業は英語でなされている。

その3移民、難民のこと

今、ヨーロッパの最大関心事は難民・移民問題。特に中東(シリアなど)やアフリカなどからの難民・移民がEUに400万人規模で移動している。EUのドイツでは今年、80万人の受け入れを表明しているがEU諸国間で対応に問題が生じている。

ところで、ネパールの家族で親戚を含めれば必ず日本に出稼ぎ関係者がいる。これには驚いた。近年、一年間で新規出稼者が40万人となっている。ネパール人は英語を話すので、世界中が彼らの仕事場で移住先だ。現在お世話になっている旅行会社の方の兄弟は、アメリカとイギリスに住んでいる。このホテルの経営者の息子もオーストラリアとイタリアに住んでいる。ネパールでは農業が主産業でサービス業、観光業はわずかで、海外出稼ぎと海外移住は周辺諸国と比べてスバ抜けて高い。ネパールの海外からの仕送り額は GDP の 25.5%にもなる。まさに出稼ぎ国家となっている。主な出稼先は中東やマレーシアなど。大学を卒業すれば海外の会社に就職しそのまま移住するので、人材の流失は深刻なようだ。

ネパール報告記(その3) (2016.1)

竹の台 島田徹

ネパールでの 5 か月間の滞在もアッという間に終わりました。 特に今回の目的だった 7000m 級の登山は、地震の影響で 山頂付近には大きなクレバスがいくつも発生して、近寄ること ができず、撤退しました。自然相手なので仕方がありません が、悔いの残る登山でした。



ところで、今カトマンズでは、ガソリン等の供給不足によって公共交通機関の制限でバスの天井に 乗客が乗っていたり(カット写真)、各家庭ではプロパンガスの購入が難しくなるなど市民生活が深 刻化しています。

その原因は、9月に制定された新憲法による「州割り」の問題があります。新憲法制定に向け、国内の州割りの方法について議論がなされ、最終的に7つの区分となりました。

ネパールの自然的条件からは南側のタライ平野(インド側)、北側の中間部と山間部(中国・チベット)の3つ(横に三つ)に分けられます。しかし、政治的諸事情から、タライ平野、中間部、山間部を一つの州として7つに(縦に七つ)分けられました。このようになったことで、タライ平野に住んでいるインド系の民族群(マデシ戦線)は分断されることになりました。従来から「マデシ州」の制定を主張してきたマデシ戦線は、新憲法に反対しています。

新憲法が制定された今日、彼らの憲法変更の要求は一層強くなり、タライ平野での「バンダ=ゼネスト」も過激となり、軍隊とマデシ戦線との衝突によって死者も出ています。

また、インドから陸路輸送されているガソリン・ガス、医薬品などがタライ平野で滞っているため、その影響がネパール全体に広がっています。

マデシ戦線の強硬な姿勢の裏には、タライ平野は穀倉地帯で新産業の振興があること、インドの「暗黙の支援」、そして、インド系民族に対する北側の「カースト」による歴史的な差別などがあります。 ちなみにネパールの人口は 2700 万人で 100 以上の民族が住んでいる「多民族国家」です。 政府はマデシ戦線の要求を認めれば、「マデシ州」の独立とインドへの併合が予想されるため、この要求を認めないという立場です。政府は中国への接近を強めていますが、国民の中にも「宗主国」であるインドへの反感とナショナリズムが勃興しているようです。当分の間、不安定な政治状況が続きそうです。

9条の会の旗を尋ねて、幾千里! (2016.10)

島田 徹(竹の台)

ネパールの山々に魅せられてこれまで足しげくネパールを訪問されている竹の台にお住まいの 島田さん。今年も7月下旬に日本を出発されて、ネパールの地を探索されています。今回も愉快な 紀行文を届けていただきました。(編集委員H)

昨年、この会のHPにネパールのルンビニ(ブッダの生誕地)に日本山妙法寺があり、そこをお参りしたら、何と 9 条の会の旗があって感動した記事を掲載した。

今年はその関係記事の取材のために、再び、ネパールを訪れた。実は、昨年のルンビニのお寺の末寺というか、日本山妙法寺が建てた「ワールドピース、パゴダ」と言う結構有名なお寺(写真



右上)がポカラにあるのだ。1300mの小高い丘に建っているので、そこにも 9 条の会の旗があるのかどうかを確認する為に数千里の旅に出かけた。

ポカラはカトマンズからバスで 9 時間。7 時に出発して 16 時に到着した。ポカラからパコダまで歩いて行けば 3 時間ほど。もちろんタクシーで行けば 1000 円ほどで 30 分で行けるとのこと。しかし、年金生活の私。お金をできるだけ節約しての旅行。時間はたっぷりある。ここは意地でも歩いていかなければと決断。

翌日、9 時にホテルを出発。歩いて 1 時間ほどでお寺への登山口に着くが、少しでも経験が大事とあえて登山口の手前でシティバスに乗車。1 キロ、数分で到着。しかし、バス料金が何と 50 円! カトマンスでは 1 時間乗っても 20 円。おかしいと思いながらも支払った。しかしどう考えてもおかしい。バスを降りてすぐに登山口があったが、登山中、なぜ、マハンゴ(高い)と言って抗議しなかったのか、そんなことを考えながら登った。

仏舎利

1時間半ほどで駐車場に着いた。下から登ってきたジープなどはここでお客さんを降ろし 10 分ほどの階段を上る。頂上に着くと約 30mほどの高さの白い仏舎利塔(写真左)が建っている。立派な



塔だ。その周りは花園で、これまでのごみごみした町中とは違って、きれいな別天地にたどり着いた心地がした。お堂は朝と夕方にお参りがあるようで今は閉まっていた。お客さんは 20 人程度だったが、ネパールの別天地と言っても過言ではないので、もう少し宣伝してもいいのではないかと思う。お堂の中を外からいくら覗いてもルンビニで見かけた「9 条の会の旗」が見当たらない。何度も角度を変えて覗いたが見えない。残念としか

言いようがない。ルンビニには毎日数百人は訪れているように思うので、ここに旗がなくても仕方がないか。とあきらめた。

(参考看護師は余っているので、月給 15000 円、公務員 25000 円、銀行員 30000 円で物価は日本並)

(エピソード)

山頂からは、別の登山道を下って、近道することにした。

しばらく行くと、おばあさんが写真を取ってくれと言うので、写真を取るとお金を請求された。全く 心外だったので、断った。この広い道から狭い道との分岐点に出た。細い道の方で間違いないと思 いながらも思案していると、おじさんが通りかかったので尋ねると、正しいとの返事。

その道を歩き始めた。するとそのおじさんが私の前を歩き始めた。ガイドブックに載っていた。「親切にしてガイド料を請求するので注意すること」と。この類と思い、ガイドは必要ないと何度も言ったが、彼は私の前を歩く。仕方がないので、ガイド料を請求されたらどう言って断ろうかとそればかり考えながら歩いた。案の定、中間地点で350円を要求された。(日当で500くらいのはず!)私は、すかさず、ガイドは必要ないと何度も言った。勝手についてきたといいながらも200円なら出すと怒りながら言ったので、フンチャ(Ok)である。メイン道路に出て、ジュース(1 缶80円)を飲んで200円を渡した。彼はあまりうれしそうな顔をしていなかったので、私は「してやったり」とちょっとうれしくなった。

以上のようなことで、「9条の旗を探して数千里」の旅は終わった。

小さな国の方達と交流して感じたこと(ブータン、ネパール) (2016 . 11) 島田 徹 (竹の台)

私が滞在しているホテルにブタン人(こちらではブータンと言っても通じません)がいます。彼はユニセフの職員で26歳。 私と同じ学校で、英語を教えています。彼はネパール語も話せますので。2年間教えるそうです。ネパールでは幼稚園から英語教育ですので、英語教師が足らないようです。そのような彼に、10月号に掲載されていた「ブータン」の記事を見せたらとても喜んでくれました。



ブータンは、人口70万人の小さな国ですが、「世界で一番幸せな国」と言うことでかつて有名になりました。私もこの内容をよくわかっていませんでしたが、とにかく、彼の話では、医療費、学校の授業料、電気代が基本的に無料であることや。また、大きな国の大使館は置いてなく、日本との友好関係が深い(7月に国王が日本を訪問していた映像を何度も私に見せてくれました。こちらでは誰でもスマホが当たり前になっている)とのことです。

ブータン政府の「国民総幸福量の定義」は、これまでのように国の経済発展「GDP」だけの側面ではなく独自の4つの基準(1公正で公平な経済の発展、2文化的、精神的な遺産の保存・促進、3環境保護、4しっかりした統治)で判断すべきとの主張です。

いま、「幸福度」については国連や民間団体などがいろいろな基準で各国をランク付けしていますが、他国との比較ではなく、要は、「貧乏(これも西欧的基準ですが・・)でも不幸と思わない」「お金がなくてもハッピー」と国民が感じられる国造りが大切だなと実感しています。(たぶん、大家族制でお互いを支え合っていける安心感があるためかもしれない)

ところで、私の興味を引いたのは、外交方針です。ブータンでは国連の5つ の常任理事国の大使館を置いていないのです。非同盟中立国の方針を貫く ためとのことです。(実際は中国の侵略を恐れて中国大使館を置かないた めの措置らしいのですが・・)ネパールも非同盟中立国の方針です。両国とも 中国とインドの大国に挟まれた小国として、生き延びるための外交方針だ と思います。

いま世界の各地で紛争と戦争が起きており、大国はこれを利用して小国を支配しようとしています。非同盟中立の国が一致団結して戦争反対の声を大きく上げてほしいと思いますが、憲法で戦争放棄を明記している日本こそがこうした非同盟中立国の中心となって世界平和の道を強く主張することが必要ではないでしょうか。経済大国の日本がこうした国々を支援することも世界平和に寄与すると思います。

小さな国の方達と交流する中でこのようなことを実感しています。 (写真の花はブータンマツリ編集者)

言葉と文化 (2017.3)

島田 徹(竹の台)

私はネパールに関わっているので、語学を勉強していますが、 なかなか単語が覚えられないもどかしさがある一方、言葉の 面白さを感じています。

最初に驚いたのは、カタカナの擬音の意味が、ネパール語と似ているということです。唱歌で「雨、雨、降れ降れ、母さんが・・」の歌で「ピチピチ、チャプチャプ、ランランラン」の「チャ



プチャプ」が、意外にもネパール語では「泥をはねる」という意味を持っているのです。そのため、この歌を小学5年生,中学1年生(日本では小学6年生)の生徒に日本の歌として最初に教えて、日本語とネパール語の類似性を説明しています。

ネパール語も日本語もそのルーツにはサンスクリット語もありますので、類似性があるのが当然かもしれません。2,3の例を挙げると、喉→ガーラ(ガラガラ声)、小言→ガーリ(ガミガミ)、くしゃみ→ハーチュン(ハクション)日給→ジャラ(ジャラ銭)、たっぷり→タプヌ、濁った→ダミ(ダミ声)、濡れた→ビジュヌ(ビショビショ)や耕地→ジャガ(ジャガイモ)等々

こうした言葉の「オン」のほかに、興味深いものが言葉の意味の類似性です。例えば、①「社会・共同体→サマジ」「平等→サマーン」「荷物・品物→サーマーン」と②「稲→ダーン」「富→ダン」「金持ち→ダニ」

こうした言葉の意味を私がボランティア活動をした、震災で被災した村落の様子から見ると、それがよくわかります)。

この村落は約50戸ですが、農作業や道路補修等において共同作業が多くあります。共同体では村人が一緒に作業に携わります。①(下左)については、ある農家の稲を脱穀した後、もみを作業場から倉庫に担いで運びますが、男も女もちょうど60kgの荷物を運びます。荷物の重さもさることながら、男女差がないのには驚きました。また、②(下右)については、もみを落とした稲わらを積み上げるのですが、その大きさで稲の収穫高が一目瞭然となり、金持ちかどうかがわかりました。





このように、言葉が語源から関連の意味へと広がっていることを実体験し、ますます言葉への興味が高まっていますが、会話はもう一つというのが現状です。

(冒頭の写真は、私のテント。被災地はトタンの家に)

ネパール語に"ふるさとを想う!!"その1(2017.9)



ネパール語を始めて聞いた時に感じたことは、「あれ?チャと言う言葉がよく使われるなあ」と言うことでした。私の古里(北九州)では「チャ」がよく使われます。「そうチャ」と言って、「そうです」の意味です。ネパール語の「チャ」は正に、日本語の「~である。~だ」と言う意味です。ちなみに「チャイナ」と言う言葉をよく聞くので、中国がネパールに相当進出し

島田 徹(竹の台)



ているなあと思いましたが、これは「チャ」の否定語だったので、中国とは全く関係ありませんでした。

なお、私たちが使う「そうチャ=そうたい」の「~たい」は「強調の接尾語」でネパール語でも強調の接尾語「~ai」の発音なのでなんとなく通じてるバイ・・・ai。(笑い)

これがネパール語との初めての出会いでしたが、いろいろ体験しているうちに、結論として「九州の 言葉の源流にはネパール語の言葉(オン)が息づいているのではないか」と思うようになりました。

日本語の起源はどこからきたのかという研究はいろいろあるようですが、地政学的にもいろいろな方面から渡来した人達が日本の中で、混ざり合って今の日本人ができ、言葉も作られてきたようです。ネパール語が日本語の源流と言う本もありますが、日本語の中に、実体験で外国語の言葉との類似性を「発見」できることは、どれだけ楽しいことか。外国語を勉強するのも楽しくなってきます。

ネパール語はもともとサンスクリット語がその源流なので、仏教を通じて音(オン)が流入したと思いますので、日本語にそのオンが残っているのも当然かもしれません。 私の推測をくどくなりますが、その道すじを紹介しますと・・。

ネパール語を覚えようとしている私は今、文字文化から少し離れて、言葉(オン)中心の世界にいると思います。その中で、初めて言葉(オン)について考えるきっかけをつかみました。

自分が弥生時代以前の人間でその中で生活している、つまり、文字のない、言葉(オン)だけの世界に生きていると考えると、言葉(オン)の重要性が少しわかってきます。思うに、「文字」は為政者が、臣民から税金を取るために、その内容を知らしめるための道具として発明したものであって、臣民たちの日常生活には文字は何ら必要ないものであると思います。当時の人たちは、言葉だけの意思疎通で十分事足りていた筈です。文盲と言う言葉は、それがあたかも悪いかの意味を持っていますが、弥生時代には音だけで十分だと思います。

意思疎通するには、物事の事象、状態を言葉(オン)にして行わなければなりませんが、言葉と言えるかどうかは別にして、擬音から発生するものが最初の言葉かもしれません。次に、ある言葉(オン)が創られれば、その状態に似た言葉(オン)が次々に作られると思います。昨年に記事として紹介しましたが、「ダン=稲」を基本に「ダン=富」{ダニ=金持ち」「ダン=寄付」「ダンラ=刑罰」と言う関連語が出てきますし、私はそれを実体験しました。

「ダン」=日本語のカタカナで書けば同じ表記(発音)になってしまいますが、意味を変えるには、舌と口の動きでその発音を微妙に変化させなければなりません。日本人にはその発音の区別がなかなか聞き取れません。日本では文字文化が中国、朝鮮から入ってくる中で、母音が 5 つでも通じるということになったのでしょうか。ネパール語には母音が 13 もあって、その違いを聞き取ることが難しいのです。中国語の場合はもっとあるので、ネパール人にも難しいとのこと。

以前にも紹介しましたが、私が発するオンが基本的には 5 つの母音でしかないので、相手には理解できないようです。ネパールでの最初の日に「夕ご飯を下さい」と言うつもりで「ラトコカナディヌホ

ス」と言ったのですが、発音が悪いので、相手には「赤いご飯を下さい」と理解されて、ホテルの人は皆一歩引き下ってざわめき始めたのです。誰かが、夕ご飯の意味だろうと言うことでみんな安心したようでした。

発音が違えば意味が全く違ってくるのです。そのため、ネパール人はお互いの会話では、相手の口 と舌の動きを見て言葉(オン)の意味を理解するのです。

学校の授業で生徒たちに日本語を教える時に、彼らは私の口の動きをじっと見つめて、白板を見ないのです。白板の「ひらがな」より、相手の発する言葉(オン)をいかに正しく聞きとるかが重要で、文字は関係ないのです。従って、彼らの記憶力がいいと言うか、直ぐ、オウム返しに言葉が返ってきます。しかし、そのオンをネパール語で書かせると十分に書けない生徒もいます。(つづく)(写真は、ガイジャトラと言って、昨年亡くなった方を偲ぶネワール族のお祭りのスナップです)

ネパール語に"ふるさとを想う!!"その2 (2017.10)

島田 徹(竹の台)

今は英語教育優先と言うことで、ネパール語は話せたらよく、英語の読み書きが最優先です。もともと英国圏なのでそれも理解できますが、一体、国語教育はどうなっているのか疑問です。

ネパールには 100 ほどの民族(人口は 2700 万)がいて、

それぞれ民族語(私のクラウス 25 人の中には 4 民族の生徒がいて、自宅では民族語、外ではネパール語、学校では英語を使う)を持っていますが、その言葉が急速に消滅しています。ネパール語と言っても民族が違えば同じ意味でも発音が微妙に違っており、相手の言葉を聞き取るのがお互い難しくなってきているのが最大の要因とのことです。

また、外国人にとって、ネパール語は同じ意味でも数種類の言葉が辞書に載っているので、どの言葉を優先的に使えばいいのかを尋ねると、どれも使っているとの事!(私の頭に入らない!)そのため、ネパール人にとってもネパール語は難しいとのことです。それを聞いて私も安心しましたが、ネパール人にとって、日本語がいちばんやさしい言葉とのことです。う~ん・・・・。

こうした体験の中、日本でなんとなく使っているカタカナ言葉について、なぜそのような言葉(オン)になっているのだろと疑問を持ち始めました。そのきっかけが、次のことでした。

ネパールでは 6 月から 9 月中旬までは雨期の季節で、1 日に 1 回はジャー(ちなみに雨のことをジャリと言いますが・・)と雨が降ります。泥道が多いのですが、水たまりに長靴で踏み込めば「チャプ」と音が出て、泥が跳ね返ります。私も子供の頃に面白がって、泥を跳ね返していたことを思い出します。ネパール語では「泥を跳ねる」と言う動詞は「チャブヌ」(ヌというのは動詞の辞書形で、日本語の動詞の遊ぶ、行くの形と同じ)と言います。

「チャプ」と言うのは擬音から作られた言葉(オン)だと思いますが、その意味が物事の状態を現すのにぴったりだと思います。生徒たちには「あめあめ降れ降れ」の歌の中の「チャプ、チャプ」の意味を教えて、「日本語とネパール語は同じ」と言う歌を創って、歌っています。

(なお、ランランランの・・のランは「色、色彩」ですが、「ラマイロ」という言葉は「楽しい、愉快」と言う 意味があり、なんとなく、通じているような気がします)

こうした言葉は多くあり、別項で紹介しますが、取り合えず、「ネパール語にふるさとを想う」と感じた決定的な言葉は、「チャ」の他に「ジュンダレている」「アッチャマー」「スタメル」という言葉でしょうか。関西にはこうした言葉はないと思います。

「ジュンダレてから、みっともなか!」と言えば、昔、子供たちがだぶだぶの服をだらしなく着ているような様子を叱っている時の言葉です。ネパール語では「ジュンデャウヌ」が「垂らす、吊るす、掛ける」と言う意味の動詞です。雰囲気が似ていませんか。

「アッチャマー」は驚いた時に使う言葉で、ネパール語では「アチャンマ」が「驚き、驚くべき」です。正に、アチャンマです。(英語の astonish もちょっと似ているかな・・)。私はこれをよく授業で使って、生徒たちの笑いを誘っています。

「スタメル」とは、茶瓶に残ったお湯を最後の一滴まで、湯呑に入れること。ネパール語の「スタウヌ」は「(太陽、月が)沈む」と言う動詞で、丸い一滴の水が落ちる様子と重なり合っているようで、興味深いところです。無理なこじつけかもしれませんが、これが九州にネパール語が息づいている「証拠」の一端と考えています。

しかし、実は、多くの日本語の中に、ネパール語が息づいているようです。

以下、クイズ形式ですが、ネパール語(左側のオン)の言葉と、右の日本語の関連語(順不同)を見つけてください。

- (①=③のように回答を順番にしたものをシマダまで、10月末までにお寄せください。全問正解の方に帰国してから粗品進呈!)ja6fia-jm3rno1650@tea.zag.jp
- ①クネ②チョット③クス④ジャガ①すばらしい②薄い③ねずみ④だます
- ⑤チュヌ⑥ダミロ⑦フス⑧スバ⑤真珠⑥賄賂⑥去る⑦ずるい⑧少し
- ⑨ムシャ⑩バラバラ⑪チョロ⑨赤字⑩つっかえ棒⑪奉仕⑫きれい
- ⑫カタル⑬モチ⑭クワウヌ⑮ヒサブ⑬濁った⑭足⑮思い出・記憶
- ⑯バダイ⑪ハラウヌ⑱ガタ⑲ダクヌ⑯触れる⑪商売⑱食べさせる⑲等しい
- ⑩ヤド 21.ガリ─22.フクヌ 23.クッタ⑩吹く 21.耕地 22.叱る 23.おめでとう
- 24.セワ 25.ドゥルタ 26.サルヌ 24.曲がる 25.息子 26.少々
- 27.テコ 28.ケヒチン 27.ゆりうごかず 28.覆う

(ヒント・・主には日本語のイメージと音が一致する部分があります)

写真説明(上右・教室、下左・修了式、下中・テント前、下右・家の中)







悲しい現実・・・ネパールのカースト制 (2018.2)

島田 徹(竹の台)

ネパールのニストスクール(カトマンズ)でのボランティアも 3 年目となり、今回の修了式を最終としました。また、2 年前の地震で被害を受けた村(タマン族の村)の小学校の訪問も毎年行いました。

学校に関わる中で、都市部と農村部との教育設備や教育水準での格差の大きさを痛感しました。これは都市部と農村部での所得の格差がそのまま教育の格差のように感じました。また、ニストスクールのクラス(大体 25 人)には、5 つの民族の生徒がおり、家では民族語、外ではネパール語、学校では英語を使っています。私にとって「民族」という存在が日常的な関心事となりました。





ニストスクールでの修了式ラチェン村の小学校(3年生まで)

ところで、私たちは社会科の教科書でインドのカースト制という身分制度を知りましたが、同じヒンズー教のネパールも同様の身分制度が「創られ」ました。

大まかな歴史は、14世紀頃にインド北部からネパールに移動したアーリア人系(地中海の人)のマッラ王朝がインドのカースト制をもとに身分制度の母体を制定しました。その後、1769年、同じアーリア系のグルカ王朝が多数異民族(約100民族)を征服しましたが、その構成はチベットビルマ系のモンゴロイド諸民族、カトマンズの被征服民族、不可触民でした。その民族系を統治するために、1854年のネパール初の民法典で明確に多数民族を身分階層(バフン、チェトリ、マトワリ(モンゴロイド系)、ナチュネ(ダリット)の4分類)に分けたのです。日本での士農工商(エタ非人)の4分類を想起します。

こうした身分制度については、1963 年に法的に廃止されましたが、社会意識的にはまだ存続しています。

私はこの数年、ネパール滞在期間中、意識して身分差別の実態を観察してきましたが、特に感じませんでした。しかし、今回の滞在で、その実態を知ることになりました。

今年の 10 月に、いつも世話になっている旅行会社の B さんの実家(東ネパール地方)に 3 日間滞在した時でした。B さんが帰省したということで、彼の友人が多く訪ねてきました。数人のグループが来た時、我々は庭で食事をしましたが、そのうちの一人は、テーブルに座らず、立っていました。実家の姉さん(学校教師)は友人達に食事をふるまっていましたが、立っていた人には足元に食べ物が入った皿を置いたのです。私は一瞬なぜかなと思いました。彼はそれを食べずにそのまま持って帰りました。

私がその様子を B さんに尋ねると、その人はダリット(第四身分)で、今でも我家の中に入らないとのこと。特に、B さんだけならいいが、お姉さんがいると、彼女には昔の差別意識が残っているので、近寄りがたいとのこと。

また、B さんからは、以前、近所の同級生の妹がダリットと結婚して、村中が大騒ぎになり、その 2 人は村に居られず、10 年目にしてやっと、子供も大きくなったので、親も諦め、村に戻ってきたとの話も聞きました。

しかし、最近、村のダリットの息子がカトマンズでブラマンの娘と結婚したので、彼女の家族を連れて戻ってきたとき、村中で彼がブラマンであるように取りつくろったとのことで、意識も随分変わってきたとのこと。

結婚は、通常は同じ民族同士でするようです。最近はカトマンズなどでアパートを借りる場合、名前で民族が分かり、ダリットの場合、借りられないこともあるので、偽名を使って借りることもあります。異民族間の結婚はこうしたことで拡大しているとのこと。

B さんも、娘がそのような状況になったら、妻は絶対認めないだろう。自分も親戚のことを考えたら、認めるのは難しいと思うとのこと。

ネパールでは名前で民族・出身が分かるのが、最大の問題だと B さんは言っています。

不思議なことに、カトマンズに戻ると、こうした結婚差別の事例を多く聞くことになりましたが、少しずつ、経済的地位を基準に異民族間の横断的結合が優先されるような意識に変化して来ている事が救いのように思われました。



招待された結婚式

ネパールでの生活(1) (2018.8)

ネパール)島田徹

今年のネパール行きは、これまでと違って「日本語教師」として臨むことになりました。 今回から教える対象者もこれまでの小学校 5-6 年生から、日本へ留学する日本語学習者となりま

した。また、住居も「準ホテル」から、個人の家へ変わりました。 個人の家といっても家主はアメリカに移住しており、管理人 が家の管理をしています。4 階建てで、延べ面積 800 ㎡ほ どの鉄筋住宅で、日本人から見れば豪邸です。私はその一室 を使っていますが、難点があります。屋上のソーラーシステムが古く て、シャワーからお湯がほとんど出ません。洗面器にぬるま湯を ためてタオルで拭いています。



家賃はこれまでの 35000 円から 25000 円です。また、食事は、管理人が朝食と夕食を作ってくれますので楽です。食事代は一か月 15000 円ほどです。夕食は一汁一菜に近いですが、庶民の食事なので、これもまた楽しです。停電は少なくなりましたが、時々、朝 4 時から 6 時までは停電します。一昨年までは毎日 8 時間の計画停電、昨年は政策転換?で停電がありませんでした。今年は、市民がエアコンや冷蔵庫を買い始めたので停電になっているとのことです。

日本語学校は家から歩いて 45 分かかります。学校と言っても 15 人ほどが入る教室が4つと事務室があります。この学校へは週 3 回。授業は 8:30 から 12:00 までです。ボランティアですが、朝食と昼食をキッチンで食べられますので、「元」が取れるようで最高です。よく肉料理(ルーライス)を作ってくれます。別の学校は週 1 回、午前中です。ここは家から 30 分のところです。ここも食事を出してくれますので、問題なしです。「食事を出してくれるならどこへでも」・・。ちなみに、現地の日本語教師の給料は、週 6 日(休日は 1 日だけ)で、35000 円ほどです。公立学校の先生は30000 円ですので、少しはいいですが、かなりきつい仕事だと思います。なお、ネパールでは、ボランティアなら尊敬のまなざして対応してくれますので、貴重な体験ができます。(為替レートはルピーと円はほぼ同じ)







家の屋上からこの奥が部屋キッチンです

原爆展に参加して ネパールでの生活(2) (2018.9)

在ネパール 島田徹(竹の台)

ネパールで私が原爆の話をする機会が持てるとは思ってもいませんでした。

8月7日にN日本語学校の先生から、9日に原爆のビデオ上映をするとの話がありました。この学校では15年ほど前から毎年、原爆の資料展示とビデオ上映をしているそうです。しかも、こうした取り組



みをしているのは、ネパールにある 500 ほどの日本語学校で、この学校だけとのことです。

8 日は、先生と私も手伝って、廊下に原爆資料を展示しました。この資料は、広島原爆資料館からのものです。

9日は学生が25人ほど参加して、原爆の説明とビデオ上映(2本で、50分)をしました。

私は、長崎への原爆投下は「小倉」に落とす予定が、天候不良のため、長崎になったことを説明しました。そして、この時期なると、亡くなった両親がいつも「ここに原爆が落ちていたら、私たちはいない。落ちなくてよかった」と言っていたことを学生に伝え、親の発言について、どう思うかと学生たちに問いかけました。そして、「地震は人間の力ではどうにもならないが、核兵器は人間が作り、なくすことができる」皆さんも「ノーモア広島・長崎」の気持ちを、体で表現してほしいと訴えました。

また、12 日には、国立アートセンターで、原爆展があり、その会場にも行ってきました。実は、この原爆展の主宰者は日本人女性で広島出身の方です。20 年前にネパールに来て、大学で日本語を教えています。私のエージェントと N 学校の先生が、日本語を一緒に学んだ第 1 期生という関係です。この展示会は 15 年前から始められたそうで、会場には M 先生の高校生のお孫さんが友人もつれて、手伝いに来ていました。 M 先生の原爆に対する熱い思いを感じました。

15 日の終戦記念日には、学校で第2次世界大戦ではネパールは「グルカ兵」が英国軍として参加 し、シンガポールの戦いで、9000 人ほどなくなったということを伝えました(WEB にて)。このことは誰も知りませんでした。日本が引き起こした戦争が、まさに世界の国々の方に被害を及ぼしたことを具体的に理解できて、私もよかった思いました。

このように、ネパールで戦争反対を訴える機会に遭遇できたことと、このような努力を今後も続けていきたいとの先生の話を聞いて、感謝の気持ちでいっぱいになりました。







展示場 学校掲示板 アートセンター小

日本で話題になっている「留学生」とは ネパールでの生活(3)(2018.10) 在ネパール 島田徹(竹の台)

最近、三宮や元町に行くと、コンビニの店員の多くが「留学生」のようです。また、どこの駅の前にも「インド・ネパール料理店」を見かけるようになりました。一方、新聞では「外国人留学生の不法就労」などが報道されています。



このような「留学生」が多くなった理由は、政府が、2008年

に「優秀な人材確保」として、留学生の入国規制を緩和したためです。その内容は、在留期間の延長、労働時間の週28時間への変更(月10万円ほど。授業は1日4時間)などです。このため、母国で日本語を習い、日本の日本語学校で2年間勉強し、日本語能力試験のN2,N1(注)に合格すれば、大学・専門学校への進学(留学ビザ)や会社への就職(就労ビザに変更)ができます。この目的のビザが「留学ビザ」です。授業料が2年間130万円ほどですが、違法に2倍のアルバイトをすれば、何とか授業料の支払いと生活費が確保出来ます。ネパールでは産業がないため、海外で働くのが当然となっており、「海外からの送金」がGDPの30%もあります。学校の先生の給料が30,000円ほどですから、日本への「留学」=「出稼ぎ」が、他の国に比べて魅力的な国となっています。学生街の通りには日本語学校がひしめき合っています。

日本の産業界での人手不足、少子化による学校経営難、そしてネパールと日本のそれぞれの日本語学校の利益が一致している所に、この「留学ビジネス」が隆盛を誇っている理由があります。 日本のあるゆる産業分野では、もはや「留学生」の労働力を抜きには成り立たない状況となってきています。しかし、本来は、優秀な人材確保の目的とは裏はらに、人手不足を補う「安い労働力確保」が目的となっています。その中で人権無視の労働実態が新聞などで報道されているのは、その一端を示しています。 日本政府は、こうした実態を改善するのではなく、一層の規制緩和を進めようとしています。

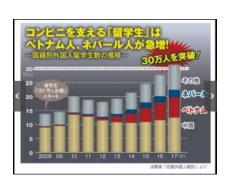
一方、昨年から入国を厳しくしてきています。表からわかるように、政府の計画数値をすでにオーバ ーしているため、入国管理局の審査が厳しくなり、「発給率」が60%程度となってきています。

私の学校の学生はとても勉強熱心で日本の大学に進学して、数年働いて、ネパールに戻って会社を 起こしたいという希望を持っています。日本の少子化に伴う人手不足は現実問題ですが、いずれ 「安い労働力」を確保することも難しくなってきます。今のうちに、こうした外国人労働者を、社会と して受け入れ、働きやすい環境を作っていくことが大切だと思います。

(注)N2 は大学・専門学校、N1 は大学院進学程度レベルの日本語能力。

ある学校では 4 月と 10 月期入学生を年間 30 人申請して 20 人ほどが「発給」だろうとのこと。 「留学ビザ」とは別に「技能実習生」という5年間期限付きのビザもあります。

日本の日本語学校も急増し、2018年5月で643校あります。



平成29年度		
ФΞ	20.168	OLA
ベトナニ	14.701	(29.0
\$11-B	3.372	MA
A1920	2.148	42
市場	1.851	13.8
nz	1,896	62.3
ing to	1,343	(2.4
OWN	842	(7.2
2416>	513	0.2
91	549	0.1
€ø€.	2.412	dis
ir.	50.892	Ayan.e

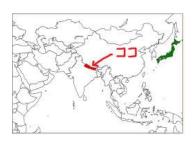


留学生増加 2017 入国留学生 日本語学校だらけ

中国とインドとのはざまで…ネパールのしたたかさ?ネパールでの生活(4)(2018.11) 在ネパール 島田徹(竹の台)

ネパールの外交関係は、中国とインドを対象に動いている。悪 く言えば両国を手玉に取っているようにも思える。

ネパール人は顔だちからして、インド・アーリア系とチベット・ ビルマ系の人々が入り混じっている。民族が 130 近くあるとさ れている。



また、ネパールと両国は、歴史的にもつながりが深い。

まず、中国とは、清の時代 1792 年に、ネパールのシャッハ王朝(1769 年~2008 年)がチベ ットに侵攻したが、敗れたため、それ以降 1912 年まで朝貢を続けていた。

インドとは、1814 年に植民地支配をしていた英国・東インド会社との戦争(グルカ戦争)で敗れたため、英国の駐在官を置かれ、事実上英国(=インド)の属国となった。その後は英国のインド支配が終わるまで、属国の地位に置かれた。

文化的には、国民の80%近くがヒンドゥ教なので、インドとのつながりは深い。また両国間の往来は、事実上フリーである。

このように、ネパールは中国、インドとの関係は昔から深いが、その両国の緊張関係に翻弄されてきた。

中国のチベット問題とインドに亡命しているダライラマ亡命政権のこと、カシミール地方とヒマラヤ東部での中印国境紛争など両国間の問題も多い。この両国に挟まれたネパールは、どちら側に立つこともできない。2015年に制定された憲法は非同盟中立が外交方針である。

しかし、両国にとって、ネパールは地政学的にも重要な位置にあるため、ネパールの取り込みに 熱心である。

ところで、ネパールでは「統一共産党」が昨年の総選挙で安定的政治勢力になった。ネパールに「共産党」が存在しているのは、旧王朝が、1950年代に王朝政治に批判的なインド系の国民会議派の対抗策として、共産党の運動に寛容であったためとのこと。

現在の共産党政権では、中国寄りが明確になってきたため、インドも負けじとネパールとの関係強化を打ち出している。例えば、中国ラサからカトマンズまで鉄道延長事業が進められているが、ヒマラヤの下をトンネルで結ぶという。そのため、インドも鉄道をカトマンズまで延長すると発表し、具体化を進めている。水力発電も両国からの投資と合弁会社の話がいくつもある。

この両国を手玉に取って事業を進める方策はこれまでも進めてきたが、政権が6か月ごとに代わる不安定な政治情勢から具体的に進まなかった。しかし、今の政権がどのようにネパールの発展のために政治を進めるのか、国民は期待と不安を持って見ている。

しかし、気になるのは、いつまで安定した政権が続くのか。また、今の中国とインドの関係は経済 的つながりが深くなってきており、両国を手玉に取って成果を誇示する旧来式の交渉でなく、ネパ ール自身の頭で経済発展の方向性を作り上げなくてはならない時期になっていると思う。

(注)・ネパールの国民所得は、アジアで最下位の年700ドル(世界銀行調)。その上位にカンボジア、バングラディシュ、ミヤンマーが続く。

被爆「ハマユウ」がネパールにも!(2019.10)

在ネパール 島田徹(竹の台)

私がボランティアをしている日本語学校が、毎年8月6日に原爆展をしています。学生が毎年変わりますので、同じ展示物やビデオでも全く問題ありません。彼らにとっては、新しい体験であり、学校がこのように継続的に開催していくことは本当に意義があると思います。私も原爆のことを話す機会がありますのでうれしく思っています。ここの校長は、今、ネパール日本語教師協会の役員をしていますので、こうした取り組みが他の日本語学校にも広がっていけばいいなと思っています。



また、ある大学の日本人の先生はネパールで毎年 8 月に、個人的に原爆展を開いておられますが、 今年は中学校での開催となりました。昨年は、アートギャラリーという国立の施設で開催しました が、今年は、在ネのフランス大使が原爆展に興味があって、見学したいとのことで、結局、中学校で 1 日の開催になりました。

この学校では原爆について事前学習をしたそうで、当日は、展示物やビデオの上映、折鶴教室、原爆関係の本の読書室が用意されていました。また、校庭の隅には広島で被爆したハマユウ(浜木綿)の子孫が植えられていました。このハマユウの花は 2015 年に起きたネパール地震の後に 15 日間咲いたそうです。私はネパールで、ハマユウは「逆境に強い花」ということ、また、花ことばが「あきらめない気持ち」ということを知り、この花が自分にぴったり?のように思えて、この花が好きになりました。この学校には以前、日本人、教師がいて、平和教育を行っていたようで、その方も今回の原爆展に招待されて来ておられました。やはり、この先生も団塊の世代の方でした。恥ずかしながら、こちらに来ていろいろと勉強させられている状況です。

(この被爆ハマユウの品種は実際はインドハマユウというもので、花も百合の花とそっくりです。被 爆ハマユウについてはこちら)

神戸市の「都市空間向上計画」って何?? (2019.8) 島田徹(竹の台)

昨年の3月に神戸市が発表し、この6月!!に、具体的内容(案)が明らかになりました。

驚いたのは、西神 NT のうち、春日台と樫野台のほぼ全域、狩場台の半分、美賀多台の一部が「居住誘導区域外」に指定されていることです。神戸市は、7月9日に西区民センターで説明会を開催しましたが、このような説明会は市内全域でわずか8か所です。説明会の参加者は、「市民がこの計画を知っていると思うか」「まず小学校区ごとに説明会をすべきだ」「土地の下落化は財産権の侵害」との意見が相次ぎました。



この計画は、国が将来の人口減少を理由として「都市再生特別措置法」によって、駅周辺とそこから 徒歩 20 分までの区域を「居住誘導区域」に指定し、そこに民間・行政サービスを集中するという 「立地適正化計画」です。また「居住誘導区域外」から民間行政サービスをこの区域に誘導するもの です。

ところが、神戸市は、国の「人口減少対策をしない場合」の推計値を採用して、50 年先に 154 万から 110 万人に減少するとして、国の「立地適正化計画」を「都市空間向上計画」に改称し、さらに「居住誘導区域」を「駅周辺居住区域」に、「居住誘導区域外」を「山麓・郊外居住区域」に改称しています。この計画の本質である居住誘導区域外の民間・行政サービスを駅周辺に誘導して、居住誘導区域外は空き家を進めるという内容を「言葉の変更」で分からなくしています。

すでに、不動産業の HP には①土地価格の下落化②空き家の増加③民間・行政サービスの撤退が進むと書かれています。これによって、西神 NT 全体の活力が低下するのは明らかです。区域内と区域外を明確にするのは、区域外の住宅地の開発には届け出の義務が発生するためです。

フランスの出生率が 1994 年 1.66 から 2010 年には 2.00 に上昇したのは、保育システム、学費無償化などの仕組みがあるためです。まさに人口減少という課題は国のお金の使い方で解消できる問題です。

「西神 NT9 条の会」の活力低下?に歯止めをかけるためにも、この問題にかかわる必要があると思います。8月8日までに意見を出しましょう。

(読んだ見た聞いた)

ミサイルでコロナを滅ぼせる!?

一中村医師「良心の実弾」ビデオを見て(2020.8)

島田徹(竹の台)

先日、中村哲医師の「良心の実弾」のビデオを見た。九州朝日 放送が放映したものであったが、これを見て本当に心が打た れた。



中村医師が1984年にパキスタンのペシャワールで干ばつに 苦しむ貧困層の医療に取り組む。それを支える団体が NGO

ペシャワール会とのこと。彼は医療活動をする中で、貧困をなくさなければ命が救えないことを体験し、その後、医療活動から民衆が生きるための生活基盤を作り始めた。砂漠に灌漑用水路を引くため、みずから建設機械のレバーを握り、民衆と一緒になって働く姿に感動した。こうして完成した用水路の周辺は緑豊かな耕地となっていく。しかし、2019年12月に水利権をめぐる争いからか、理由はわからないが、車で移動中の彼と同乗者が銃弾に倒れた。

中村医師は灌漑用水路を建設する中で「戦争をやめて用水路を作ろう」と戦争を続ける勢力に呼びかけていた。そして、日本人には"戦争の無力さと日本国憲法の 9 条を絶対守らなければならないこと"を強く訴えていた。中村医師は、厳しい自然との闘いの中で、戦争の無益さと世界での貧困の格差を痛感していたのではないだろうか。今また、アフリカ、中東そしてインドにまでバッタが異常発生し、農作物に甚大な被害をもたらしている。中村医師が尽力したアフガニスタン、パキスタンは?と思うと心が痛む。

今、コロナウイルスが世界中に蔓延し、感染者は 1600 万人、死亡者は 60 万人を超え、有力な対策が見い出せていない。人類の危機ともいわれる中で、各国は今こそコロナ対策で手を結ばなければならない。しかし、アメリカと中国はこれまで以上に敵対関係となり、世界を分断している。安倍政権は、このアメリカに追従して、武器の爆買いを続け、「敵基地攻撃能力」を保有しようとする動きを強めている。

これは中村医師の平和の願いとは全く逆の姿勢である。こうした戦争礼賛の安倍政権に「ミサイルで、コロナを滅ぼせる!?」と戦力の無益さを訴える「良心の銃弾」を打ち込もう。

「奇跡の街合唱団」のコーラスミュージカルを見て

・・・・故中村哲医師の遺志を継ぐとは・・・・

島田徹(竹の台)

当会の4月23日、第14回記念のつどいでは、ペシャワール会の藤田氏が「百万の銃弾より水を!」と題して、中村哲医師の足跡を講演しました。

つどいにはペシャワール会員の方が 20 人ほど参加され、その情報発信には「奇跡の街合唱団」 (壇美知生氏主宰芦屋市)が大きくかかわってくれました。団員も 6 名が参加してくれました。檀美 知生氏が中村哲氏と高校の同級生ということもあって、合唱団はペシャワール会の活動を支える活動も行っています。

この合唱団のコーラスミュージカルが 7月 18 日芦屋ルナホールで行われ、会場はほぼ満席でした。(5~600 名くらい?)檀氏からの案内チラシもあって、私も参加し、ただただ驚くことばかりでした。

まず開場前には外に100mほどの人の行列で、参加者には子どもたちも多かったです。

コーラスミュージカル「魔法の森一夢の片隅の物語一」のあらすじを紹介します。

魔法の森の泉が枯れたため、困った王様や魔女たちが、人間社会に異変ありとして、その原因究明と解決策を持った人間探し(夢持つ人間探し)の旅に出る話です。

第1部は人間社会の問題として、三話取り上げ、①母子家庭の苦悩から母親を救い、子どもたちの夢を引き出します。医者になりたい、看護婦になりたい②永田町の役人(青木さん)が上司から「文書改ざん」を迫られる場面に出くわしますが、彼らに正義と勇気の心を取り戻させていきます③みかんの丘にたたずむ老人から、長崎で被爆をうけ悩み苦しんでいる話を聞く。どのように若い世代に継承するのかと。ここでサーロ節子さん(そっくりさんが演技!)が登場して、



(HP から別の公演シーンですが、このような雰囲気)

核兵器廃絶を訴える。また、ロシアによるウクライナ侵略の現実に、核兵器の廃絶と平和的話し合い で解決をとの訴え。(HP から別の公演シーンですが、このような雰囲気) 第2部は、中村哲医師の歩み。主にアフガニスタンでの診療活動や「命の水の用水路」作りの36年間の物語。この期間はソ連の軍事介入(1979~1989年)とその後のアメリカによる20年間(2001~2021)にわたる軍事介入の中で、黙々と用水路作りに地元の人と一緒に汗を流す中村医師の姿を映像で紹介。気候変動による干ばつも。合わせて舞台では、中村医師が国会で証人として「自衛隊派遣は有害無益」と証言。周りの議員から「取り消せ」のやじ!然し動じない中村さん。(*同時多発テロが起き、自衛隊による後方支援を可能にする法案審議の為)この証言の後、ペシャワール会には寄付金申出の電話が殺到!(暗転)

エピローグこんな日本、世界、100 年後どうなるのかを問う。「今なら間に合う」「夢を持つ人間を信じて」・・・

少々長い説明になりましたが、感想は、一言でいえば、社会問題をファンタジーな物語の中にとりいれ、それをコーラスミューカルとして観客に問いかけ、観客にとって考えさせられながらも勇気が 湧いてくるものでした。

ここで提起された問題は今の日本では現実的なものばかりです。文化活動にもいろいろな立場での表現の仕方もあるでしょうが、大体において、周りの雰囲気に合わせた内容であると思っていました。しかし、ここは違っていました。違っていたと感じたのは、文化活動というものを理解していない自分とどうしてこのように社会的問題を率直に文化活動の中で表現できるのか・・・・・

この合唱団の団員募集の参加資格に①歌が好きな人、被災者などの弱き立場の人を音楽で支援 したい人。②ペシャワール会でのアフガン支援に協力したい人とあります。

中村医師はハンセン病に苦しむ人たちや干ばつ・戦争によって、避難生活を余儀なくされた人たちと接する中で、一人一人に親兄弟と家庭があり、誰一人見捨てられる人間はいない、命を守りたい、生活できる環境を作りたい、この信念と実行力を示しました。中村医師のこの強さが人間として、夢を持つ人間として、この劇で謳われたのでしょう。

中村医師の言葉、『議論より実行』。議論先行では何も変わりません。弱者に寄り添った実行力で こそ誰はばかることなく社会問題も自信をもって、世に訴えていける。「奇跡の街合唱団」は、その ような遺志を継いでいるように思いました。

なお、次回企画予定として、ペシャワール会支援室長「藤田千代子氏講演会」と中村哲 医師の愛したモーツアルト歌曲・平和と愛のオリジナル曲の音楽のステージとなってい ます。日時場所は未定ですが、興味のある方は HP をご覧ください。#奇跡の街合唱団

選択的夫婦別姓に思う・・・子どもの名前はどうなるの? ーーネパールの状況も参考にしてーー (2025.4) 島田徹(竹の台)

当会開催のつどいは、3 月 16 日に西区文化センターで後藤玲子弁護士による「『 選 択的夫婦 別姓』について - 実現になぜこれほどかかるの? - 」をテーマにした学習会 でした。その概要は・・

- ① 選択的夫婦別姓の法的根拠として、憲法 13 条「個人として尊重される」、14 条「性別により差別されない」、24 条「夫婦が同等の権利を有する」。 民法 750 条「婚姻の際、夫又は妻の氏を称する」739 条「届けることによって効力を生 ずる」767 条「離婚の際の規定」、 戸籍法 74 条「夫婦が称する氏を届けなけれ ばならない」。
- ② 歴史的流れとして、江戸時代の農民、町民は氏の使用を許されなかったが、1898 年(明治31年)、明治民法に「夫婦は家の氏を称する」(家制度)が規定 された。その後、1985 年「女性差別撤廃条約」批准。1996 年法制審議会が「選択的夫婦別姓」導入を答申。2015 年最高裁「夫婦同姓」の合憲判決。以降、合憲判決続くが、「国会にゆだねるべき」の意見もあった。
- ③ 国会等では 1997 年 140 回通常国会から毎年、議員立法案提出されるも継続審 議、廃案となる。2024 年国連の女性差別撤廃委員会が 4 回目の勧告を行う (皇室典範の改正も含む)。
- ④ 反対論者である百地 章(国士舘大名誉教授、自民党の代表的論客)の「伝統 的な家族の崩壊論」などの主張を紹介。また、石破首相も自民分断を恐れ、持 論を封印している。
- ⑤ なぜ実現しないかについては、日本会議、神社本庁、統一教会などから、物心 両面の支援を受けている自民党を中心に多くの国会議員がいるため。

以上が概要ですが、私は反対論者に関して興味がありました。

選択的夫婦別姓に反対している中心的な組織は「日本会議」と「神社本庁」のようです。日本会議は、「天皇中心の国体」を守る事が「国を守る」としています。天皇を頂点とした国、「万世一系」による家族制度の存続がその思想的基盤にあり、夫婦別姓問題では「日本の同一姓の伝統がくずれる」「両親・親子の姓が異なると、こどもがかわいそう」との論調で反対しています。しかし、「伝統」「氏」と言っても、国民が氏を持ったのは明治31年の明治民法で決められてからであり、それ程の伝統ではありません。

また、「神社本庁」は、本来の自然物に対する信仰としての「神道」を 利用して、戦前の天皇を神(大照大神)の子孫と考え、天皇を頂点と する国家体制の存在として尊ぶという「国家神道」の考えを復活させ ています。この「国家神道」は国民のものの考え方、価値判断を決め る政治的指針となり、国民を戦争へ駆り立てる精神的支柱となりま した。(余談ですが、私の実家は「神道」で、神主さんともお付き合い があり、それ自体はいいのですが、神社に参拝すると日の丸が大きく



目立って、いつも気になっています。 又、戦死した兵隊は、神になっているので墓石は先端が尖 った神道形式になっています)

日本会議と神社本庁(政治連盟)に所属する国会議員は300人程と言われています。その彼らに選挙運動や資金援助を行っているため、大きな影響力を持っています。安 倍暗殺事件で自民党と統一教会のつながりが明らかになりました。日本会議、神社本 庁にとって、選択的夫婦別姓問題は「家族の崩壊をもたらす」という共通の根本的な 問題であるため、国会でも法案に反対しているのです。また、国連の女性差別撤廃委 員会が、「皇室典範の改正」について勧告したことも、神=天皇を否定するものとして 絶対認められないという立場です。こうした背景を持つ日本政府が"国連拠出金の一 部制裁"を発表したことは、世界中に日本政府の人権意識の低さを示すことになりました。

ところで、WEB を参考に、いくつかの国の夫婦別姓について調べました。

国 名 婚姻中の妻の姓(ほとんど慣習法によるものが多い)

中華人民共和国 1. 自己の姓+自己の名 2. 夫の姓+自己の姓+自己の名

大韓民国 1. 自己の姓+自己の名

オーストラリア 1. 自己の名+夫婦の一方の姓 2. 自己の名+自己の姓 3. 自己の名+自己の姓 +配偶者の姓 4. 自己の名+配偶者の姓+自己の姓

アメリカ合衆国 1. 自己の名+自己の姓 2. 自己の名+夫の姓

なお、日本人と外国人が結婚した場合は、両国の法の適用で、実質、選択的夫婦別姓のようです。 ところで、毎年訪問しているネパールの状況について友人(日本語教師)に尋ねて みました。

1 結婚したら、妻の名前はどうなるの? 結婚証明書を市役所に提出する際の表記は、名前+旧姓+(夫の姓)のように、()書きとする。旧姓を夫姓にしてもいいが、これをすると、30近い公的機関に書類を出さないといけないので、ほとんどの人は変更しない。公的機関での使用名は従来

の名前を使用する。パスポート、銀行名義も名前+旧姓で良い。

2 子どもの名前はどうなるの? 子どもの出生時には、大体、父の姓を つけるので、名前+父の姓となるが、母の姓 でもいい。市役所に登録 する。離婚の際、どちらでもいいが、変更すると今後の手続 きなどが 煩雑になるので、変更しないことがほとんど。

3 子どもの人権と国籍問題について ネパールでは父親のいない子ど もの国籍問題についてはちょっと複雑。 父親のいない出生児に国籍を 与えるには、一定の在留期間などの条件があり、その 条件緩和などが 議論されている。かなりの無国籍の子どもたちが存在している。特に、ネパールの南側の地域ではインド系ネパール人が多く、 ネパールからの独立を主張する政治勢力もいる。その為、こ の地域での人口増加



僧侶による娘の誕生会

について、ネパールでは問題視されてい る。国籍問題はこうした民族問題とも絡んでいるので、子 ど もの人権問題だけで議論するのは難しい面もある。

4 最後に友人は「夫婦別姓問題は、お互い愛しておれば、名前は関係ない。離婚の際、女性から考えると名前はそのままの方がいい。」と言われました。(あ~あ!)

以上、友人の話も併せ聞いて、日本の支配層は選択的夫婦別姓問題を「個人・人権の問題」ではなく、「国家支配」に結びつけていることがよく理解できました。

(エッセイさまざま)

ネパールにも9条の会の旗が!! (2014.12) 島田徹(竹の台)

私は、9月19日から11月2日までネパールの登山に行ってきました(めざした山写真右6246m)。3回目となる今回は、兵庫の勤労者山岳会の仲間4名と一緒に、西北ネパールにある6246mの未踏峰の登頂を目指しました。しかし、たまたま、記録的な大雪に遭遇し、登山装備が雪崩で流されたため、登山を中止せざるを得ませんでした。(日本大使館員の話ではこの大雪でネパールでは45名が死亡(2名は日本人)したとのことです)



ところで、登山のためには前半のトレッキングで高度順応を行いますが、トレッキングといっても隊員 5名、シェルパ、コックなどのスタッフ 4名、ラバ 25頭、その馬方が 6名、総勢 15名の陣容によるキャラバン隊です。途中はほとんど人に会わないため、ヤクや山羊の放牧地にいる現地の方に、山羊を譲ってもらい、肉の補給をするなど、いろいろと貴重な体験をしました。

この大雪のお蔭?で、1週間早く日程が短縮できたため、首都であるカトマンズへの帰路の途中、ブッダの生誕地として知られ世界遺産に登録されている「ルンビニ」という街を訪れることが出来ました。ここには、生誕地の記念館、アショカ王の記念塔のほか、世界の寺院などが広大な「ルンビニ園」に整然と配置されています。日本のお寺は「日本山妙法寺」があります。この寺はブッダ記念館と対極という重要な位置(3kmほど離れているが)に配置されています(写真左下)。折角なので、お参りに行ったところ、驚いたというか、うれしいというか、このお寺の入口に「日本山妙法寺9条の会」の旗が両側にありました(写真右下)。

この寺は、以前、国民平和大行進では、太鼓をたたきながら一緒に歩いていたお坊さん達の所属寺だったと記憶しています。

しかし、ネパールに 9 条の会の旗が・・・これまで、私の頭の中は、登山だけの世界でしたが、ネパールのこの地で、突然、世界平和の世界の中に引き戻されました。

思いもかけない体験をしたネパールの旅でした。





3 年ぶりのネパール まずはコロナの洗礼から・・顛末記(2022.10) 島田徹(竹の台)

ネパールには、これまで、登山やトレッキングを目標に行き始めたが、完全退職後は日本語教師のボランティアもしながら継続してきた。2015 年のネパール地震での被災地ボランティアやカトマンズで原爆展の手伝いなどなど、結構することが多くあって、時間が足りないくらいだ。今回は3年ぶりのネパール行きとなった。3年間で何が変わっているかな?と想いながらネパールの地を踏んだ。

最初の1週間はいろいろ準備や整理で忙しく、疲れ始めていた。そのような中、17日出午後から日本語学校の女生徒を引率してネパール日本人会主催の盆踊り大会に参加した。帰りの時、熱を感じていたがまさか・・・

自分の部屋(旅行会社の倉庫の一部を改造している)に戻って体温を測ると 38.2 度、のどが痛い。18 日(1)、19 日(1)も同じ状態。持参した薬を飲んでいたが、状態は変わらず。授業日の 20 日火には、身体がしんどいが、状況報告に行った。すぐ家に帰って近くの外国人専門病院に行くことにした。これには、旅行会社のラナさん(日本人向け旅行会社なので日本語がペラペラ)が同伴してくれ、私は今まで一度も病院に行ったことがなく、風邪によるのどの痛み程度しか思っていなかったので、費用のこともあまり気にしていなかった。診察を受けると、コロナの検査をするというではないか。ええー、4 回目は先週済ませてきたのに! 風邪じゃないの?

ベッドに横たわりながら、昨年の春、友人がネパールの登山中、コロナに罹り、入院費用が9日間で110万円かかった話がよみがえってきた。(保険に加入していなかったので自腹・・8000m級の登山保険料は30万円ほど、以前私の低い山で23万円だった)。もしもコロナだったら、入院させられるのではないか。自宅待機で十分だと主張する気持ちで身構えていた。コロナの患者はネパール全体で毎日200名前後で推移しており、危機感は薄れている状況だった。

ラナさんが「コロナに罹っている、10日間自宅待機」との報告に来た。「自宅待機」と聞いて

ホッとした。3 日ほどで回復し、その間ラナさんが食事などを運んでくれて大変お世話になった。

ところで、ネパールに到着してまず、注意を受けたのは、「デング熱」だった。デング熱は蚊を媒介にして高熱が出る病気で死亡までは至らないとのこと。2019年の流行では18,000人が罹り、6人死亡だったが、今年はすでにカトマンズを中心に3,000人が罹っており、以前のペースを上回るのは必至とのこと。確かに、2019年の時、消毒液を担いだ数人の人が周りを消毒して回っていた。これはデング熱とは関係なかったかもしれないが・・。とにかく私は室内でも蚊に刺

されないように、長そでシャツ、長ズボン、靴下をはいている。このようなことがネパール発第1報となった。



ご満悦の私が一転・・・

3年ぶりのネパール ネパールのこの 3 年間で変わったこと・・・(2022.11) 島田徹(竹の台)

前回は 2019 年 11 月に帰国しましたが、その後は、コロナのため行けず、この 2022 年 9 月 に入国しました。この 3 年間で何が変わったのか、紹介します。

1日本語学校の様子は・・・

例年、どの国でも日本語学校は 10 月入学期と 4 月入学期に合わせて、留学生を送っています。彼らは 1 年間もしくは半年間くらいの授業を受け、N5 という日本語能力試験(N5~N1、世界中で年2 回実施,)に合格しなければなりません。ところが、コロナの影響で、2020 年 4 月入学から2022 年 4 月入学までは日本の入国制限のため、ほとんど留学生を送れませんでした。しかし、今年の 8 月から入国が大幅に緩和されたため、それまでの待機組の学生が日本へ入国可能となりました。そのため、日本へのビザのオンライン申請(2021 年 4 月から日本大使館業務を民間会社に委託した)が一斉となり、パンク状態となっています。他国からは申請がしやすいとのことで、日本の知り合いに頼んだりもしています。受入れ側の日本の日本語学校にとっても財政的に影響が大きかったようです。今後は、この状態は解消されていくとのことです。学生のほとんどが借金をして

いるので、早く日本に行かなければなりません。日本でのアルバイトが当面の目標ともなっています。

2円安・ドル高の影響は・・・

ネパールは輸入経済で、製品(食料品から電化製品まで)の 7 割までが外国からの輸入品で、ほとんどがインド製か中国製です。したがって、ドル高の影響を直接受け、価格が値上がりしています。ちなみに私の好きなビスケットも 20Rs から 25Rs になっていました。ネパールは外国からの援助金と GDP の 3 割を占める出稼ぎ先からの送金で成り立っているのが実情です。出稼ぎ先からの送金には預金金利も優遇されています。なお、子ども 3 人のうち 2 人は外国で働いている状況で、彼らは英語ができるため世界は一つの感覚です。

しかし、コロナとドル高によって、働く機会の喪失と外国での賃金も相対的に価値が下がり、外国送金額が減っています。私が世話になっている「TAROTREK」旅行会社では、この急激な円安による影響を直接受けています。日本からの旅行代金(10日間7人)が、3月に契約した時、1人30万円=2542ドル/118円/ドルだったものが、10月時点で1ドル145円=368,500円(2割アップ、日本円での契約がほとんど)となりました。これでは赤字となり、しかも7人分なので損害額も大きくなります。この事情を、お客さんに説明するのに苦労したとのことです。このままでは日本からのお客さんは来ないだろうと悲観しています。この円安の影響は、外国からの部品調達に依存している日本の中小企業は、同様な苦境に陥っているのが実情だろうと思います。

3日常生活では・・・

- ●私が住んでいるのはネパールの中心街なのですが、車とバイクがますます多くなり、歩くのがこれまで以上に危険になっています。相変わらず埃の多さにはあきれています。できるだけ窓を開けないようにしています。
- ●また、コロナだけではなく、デング熱が流行し、周りの人たちが次々に罹患しています。インフルエンザ程度らしいですが、蚊対策のグッズを貸してもらいました。テニスラケットくらいで、面に電流が流れるので、これで虫を追いかけまわしたら効果抜群。当たれば「バチッ」と気持ちいい音がします。(笑)
- ●停電は 2017 年まで一日に 8 時間の計画停電でしたが、2018 年から全く停電がなくなりました。民生用を優先したとのことでしたが、今回は朝方に 1 時間程度よく停電があります。生活水準が上がってきているのだろうと思います。ちなみに、私の大家さんの家にはすべての電化製品が揃っています。



●カトマンズの水不足解消のための水道事業がまだ完成していませんでした。当初 5 年計画が 30 年もかかっています。2015 年の時、工事関係者からもうすぐ完成との話を聞きましたが・・。水事情や電気事情などの話は、書ききれませんので、この程度で。

●TAROトレック事務所(一部に私の部屋がある)の前に 2019 年完成の大きな複合ビルがありますが、その中に外国へのビザの交付窓口(日本大使館の分も)が出来ましたので、その関連事務所も多く開設され、人の出入りが極端に多くなっています。そのため、狭い道路は車とバイクと人で大混雑。ガードマンが見境なく、一日中、笛を吹き続けていますので、うるさいこと、この上なしです。

4政治経済関係・・・今回は簡単に(次回に詳しく)

ネパールは中国とインドに挟まれ、その両国とどのように付き合っていくかが昔からの課題です。 憲法上、非同盟中立となっています。以前にも書きましがこの両国を手玉に取って、経済援助をどれだけ引きだすかが、大国に挟まれた小国の生き延びる策なのでしょう。特に中国の経済援助が私の目には映ります。中国側からネパールへの道路の建設(4000M級の峠を越えての道路建設は大きなブルドーザーで山を削っていました)、ネパール地震の時の世界遺産の修復はアメリカとの競争でした。大水力発電所の建設や鉄道の建設計画など積極的です。インドもこれに負けじと経済援助をしています。ただ、ネパールの輸出入の大半はインドで、インド系ネパール人も多く、文化的な共通性を強調しています。インドとはパスポート、ビザなしで自由に出入りできますので、多くのネパール人が働いています。

しかし、ネパールはこれまでもインドの半植民地的な位置に置かれてきたため、インドへの警戒心が強いようです。政治的には大体、インド寄りと中国寄りの政権が適宜交代しているようです。しかも連立政権ですので不安定です。今は、地政学上も重要な位置にあるネパールに、アメリカも援助を強めています。

今回、目新しいのは、ネパールの領土が地図上で増えた事です。少なくとも 40 年ほど前からは地図上に記載されていなかった部分が、2020 年から地図に記載されることになりました。また、11 月 20 日には国政選挙があり、その後の動きが注目されています。

この他にも、難民問題などあります。



(新) 左上の角の部分(旧)

3年ぶりのネパール チベット難民とネパール

島田徹(竹の台)

2022 年 11 月 8 日から 13 日までの日程でランタン・トレッキング(標高3400m)を行いました。

本来の目的は、ネパール大地震(2015 年4月 25 日)の震源地に一番近く、被害も大きいと聞いていましたので、その後の状況を見ようと計画しました。しかし、このトレッキングで別の興味深いものもありましたので、「チベット難民とネパール」として、感想を伝えます。

このランタン地方はカトマンズの北約 100 キロの所に位置し、中国との国境検問所(ラスワガリ)もある山岳地帯です。1970 年代に「世界で美しい谷の一つ」と紹介されたため、それ以降に外国人が訪れ、特に日本人が多かったとのことです。この地域にはタマン族が昔から居住しており、世界遺産になっている場所もあります。

このコースの途中のラマホテル(lamahotel という地名、15 軒ほどの宿泊地)という場所で、行きと帰りの 2 回、同じゲストハウス(Tibetguesthouse,簡易宿舎で日本の山小屋程度)に宿泊しました。夫婦と使用人 1 名で経営していますが、収容人数もガイドポーターを除き、お客は 10 人程度なので運営ができています。このトレッキングコースの住民の苗字はほとんどタマン族のタマンとなっており、本人たちもタマン族と言っていました。しかし、顔だち、服装からしてどうも隣のチベット人の雰囲気です。どうしてだろうと疑問に思い、この夫婦に聞いてみたいと思いました。聞きたいことはガイドのビシャールさんが通訳してくれ、彼はネパールの歴史やいろいろなことに精通しているので、安心です。

翌日、朝食をとりながら夫婦の歴史を聞きましたが、その内容は次のようなものでした。・・・・

1956 年、中国軍がチベットに侵攻し、家は焼かれ、両親と 7歳の自分はこのランタンから西北に約 200kmの中国との国境である峠からムスタン王国(当時ネパールの自治国で 2008 年ネパール王国とともに消滅)を経て、このランタン地方に逃れてきた(馬に乗って)。この峠は、子どもでも通過できるので、多くの難民はこの峠を通過した。兄はラマ 14世と一緒にインドに逃れたが、その後の消息は不明。このランタンにチベット難民キャンプができ、その後、私と友人のラマはラマホテルを建てた。当時一軒しかなかったので、ここの地名がラマホテルとなった。しかし、1972 年頃、ネパール政府から国立公園内なので、難民キャンプ住民は移転させられた。その際、ラマホテルは 5000Rs でグルン族の人に売った。移転先はポカラのパクレチャンゴ、近くの trishuri、カトマンズの jorpati の 3 つの中から、私はカトマンズに行った。そこで、国籍をもらい、この地に戻ってきた。地元の役所で名前を登録する時、この地方はタマン族が多いので、タマ

ンの苗字になった。妻は、近くのシェルパ・ガウンの娘だった。このゲストハウスは 1980 年に建てた。当時は日本人が多く来てくれたが、最近は滅多に来ない。どうしてだろうか。息子は、オーストラリアで仕事をしている。・・・・(以上のとおりです)

ご主人は、チベット語、タマン語、ネパール語、英語での会話が出来ます。しかし、チベット文字しか読み書きができません。したがって、食事の注文書には、大体、英語文字で書かれるので、その文字を読んでもらい、それをチベット文字で自分のノートに書いています。朝食を作る時、自分のノートを見ながら作っていました。

奥さんは、昨日の夕食後にダライ・ラマ 14 世(インドにある チベットの亡命臨時政府代表)の説教をインターネットで観て いました。奥さんはチベットに戻りたいと言っていました。奥 さんはシェルパ村の娘と言っていましたが、実際はチベット難 民で、住民登録の時にタマンと同じく、山岳民族であるシェル パ族の名前をつけられたのではないか、村の名前も同様では ないだろうかと思いました。シェルパ族の宗教はチベット宗教



ですが、帰属意識はネパールです。昔の国籍作成の経過はいい加減で、ムスタン王国の場合は、チベット難民をすべてスードラ(カースト制でバウン、チェトリ、バイシャ、スードラの順)の身分に位置付けたとのことです(ビシャール言)。

ネパールでは 1951 年に教育省(ラナ専制体制から王政復古となる年)が出来るまで、一般の教育制度はありませんでしたので、60歳台以上の男性、50歳台の女性は十分な義務教育を受ける機会がなかった。こうした事情から文字の読み書きができなかったのだろうと思います。

なお、ご主人は、私と同じ年齢で、日本人と顔立ちが「セイム、セイム」なので自然と仲良くなりました。 ところで、私が 2013 年に登山のために訪れたチベットは、大きな縦貫道路と中国人移民団地が至る所にできていたことに目を見張りました。また、町のビルは「〇〇省の寄贈」との銘版が貼ってあり、全国からの寄贈で建てられていました。町にはチベット人はあまり見かけることはなく、漢民族が多く見受けられました。同属民族の人口増加が将来の所属の決め手となることを見越してのことだろうとその時感じ



ました。何故なら、移民団地の建設は旧日本軍の満蒙開拓団と同じ手法です。私はこの関連業務にかかわったことがありますので、その思いを強くしていました。

今年、中国使節団がネパールに来て、経済援助の約束をしました。その中の1項目にチベット人による反中行動を取り締まることが挙げられていたことに、この問題がまだまだ中国政府にとって大きな政治課題となっていることが分かりました。

いずれにしても私がこのランタン・トレッキングで知ったチベット難民の一場面は以上の通りでした。

(注)

- 1.「チベット難民問題」(wikipedia)は、中国政府、亡命政府の主張を比較して記述している。
- 2.1960年に「中国ネパール友好条約」を締結し、チベットが中国の一部であることを確認。 1961年、両国間の国境を画定した。その後、チベットからの難民を受け入れず、第3国への移動を認める旨、国連と覚書

3年ぶりのネパール

ラチェン村、三度目の訪問・・・過疎化の進行 島田徹(竹の台)

2022 年 11 月 8 日からのランタン・トレッキングが終わった 13 日(日)、最終地のシャブルベシからカトマンズの帰り道にラチェン村を再訪しました。この村は 2017 年 10 月と 2019 年 8 月の 2 回訪れています。

1回目は、ネパール大地震(2015年4月25日)後に、ビシャールさん(私がお世話になっている旅行会社)を通じて西宮のボランティア団体が災害支援をしているという村を見学することになりました。私は現地の皆さんの話を聞く中で、10日間、仮設の家の横にテントを建てて、ボランティア活動をすることなりました。この期間中、稲刈り、道路の補修、草刈、魚とり、近くの小学校での授業等をする中で、村人とも親しくなりました。この経験が私のその後のネパールでの活動の糧になりました。2回目は3日間の表敬訪問で、しかも雨期の時でしたので、屋外での作業もできませんでしたが、温かく迎えてくれました。この村を今回訪問し、皆さんと再会できることを期待していました。

私たちはシャブルベシからバスで Trishuri の手前の Betrawati まで行き、そこからジープに乗り換えて村に行くことになりました。カトマンズから迎えに来てくれたジープの運転手はこの村の方で地震でお母さんを亡くしています。とにかく道路には標識がありませんので、村の関係者でないと村にたどり着けないとのこと。到着するまでの経路を見てなるほどと思いました。

Trishuri 川の支流である sidure 川をさかのぼっていくと川の周辺は稲が刈り取られ、次の耕作のために牛糞と鶏糞が田畑に積まれていました。自宅での肥料とのことで、自然農法そのままです。ジープが登りになり、しばらくするチャトラレというバス停に着きました。以前はここで、カトマンズからのバスを降りて、30 分ほど歩いて下ればラチェン村でした。

しかし、ジープがそのまま道を下っていきます。以前はガタガタ道でバイクが何とか通れる状況でした。雨で道が崩れバイクが通れなくなったため、私も道路補修をしたことがありました。今回は、その道が少し広くなっていましたが、運転を誤ると道路を滑り落ちる状態でしたが、運転手を信頼する以外にありません。最初に着いたところが小学校。と言っても100㎡ほどの1クラスの平屋。何とそこは草茫々となっていました。子どもが少なくなり、ここから歩い



て1時間ほど登ったところの小学校に統合されたとのこと。ここで授業したことを思い出します。 車はここからしばらく両側から伸びた草の中を進みます。以前はきれいに整備されて、歩きやすかった道でした。しばらく進んで到着したのが、昼食を準備してくれている家でした。

この家には両親と息子、娘 2 人の 5 人家族。息子のスジャンは小 6 年生で、今日は仕事の関係で休んでいるとのこと(ネパールは土曜だけが休みで日曜日は登校日)。私はこの子を覚えていて、彼も私を覚えてくれていた。娘の一人は学校に行っている。もう一人はヤギの世話で、出かけているとのこと。子どもの教育より家庭の事情が優先しているのが実情です。ご主人の顔も見覚えがありました。2017 年、稲刈りの



脱穀の時、大きなザルでもみ殻を落としていた人で、顔だちがチベット人風で、ちょっと他の方と違っていました。この家は、震災後、国から支援金 30 万 Rs をもらい、自分で建てたとのこと。着工時に 5 万、検査(鉄筋が入っているかどうか)後に 10 万、完成後に 15 万受領。ここは 2 階建てになっているため、延べ100㎡くらいでしょうか。

家族と一緒に昼ご飯を食べましたが、鶏の肉の御馳走でした。田舎ではなかなか肉を食べることが出来ませんので、私たちのために準備してくれたことに感謝しました。お土産にサトウキビを切り取ってくれましたが、私は試食のため皮を歯で剥ごうとしましたが、硬くて剥げませんで

したので、皆で大笑いしました。隣の倉庫には、どぶろ くの作り置きがあり、お土産に少しもらいました。



ビシャールさんの訪問目的は、西宮のボランティア団体が震災後に新築した家にトタン屋根(平均で10万円、合計150万円ほど)を支援したので、その様子を改めて会の皆さんに報告したいとのことでした。

しかし、支援した家のほとんどが空き家かなと思われるほどに、家の周辺は草が茫々になっていました。様子を聞くと、今は農作業で出かけているので鍵がかかっているとのことでした。地震後に再建した家は13戸あり、トタン屋根を支援したのは11戸。この11戸を今回調査しましたが、2戸は既に空き家となっており、子どもがいるあの一戸を除いてすべて老人世帯になっているとのことでした。移転した理由は、カトマンズ(車で4時間ほど)に息子たちがいるためと、近くの町が便利とのことで引越したとのことでした。この空家の家では前回、バナナが多くなっており、それをちぎってもらったことを思い出しました。

以前の状況は、まず家があり、その少し上の所に牛がいて、家の前にヤギと鶏がいて、その横にバナナの木があり、その下に畑があります。これで堆肥が自然に下に流れだし、果物、作物もよく生育し、バナナはたわわになっていました。何と自然と調和した村だろうと感心していました。・・・・しかし、数年後の現実は、私が前回お世話になったディディ夫婦のように、歳をとると、牛やヤギのエサの刈り取り(毎朝夕にそれぞれ 1 時間ほどかかっていた)が出来なくなり、牛・ヤギを飼えなくなった。したがって周りは草が多くなった。たとえ家族からの送金があっても、歩いて 1 時間ほどで、しかも山道の生活圏では年寄り夫婦にとっては住めない状況となっている。この付近で子どもがいて、牛を飼っているのは昼食を食べた 1 戸だけだった。あと 5 年でこの村も消滅するかもしれない。・・・・あまりにも急激すぎる村の変化に一抹の悲しさを感じた訪問でした。

ネパールで 11 月 20 日に実施された国政選挙 ではどの政党も過疎化問題に触れていないとの ビシャールさんの言。この村の現実をボランティ ア団体(以前訪問したことがある)にどのように 伝えたらいいのかビシャールさんと相談しています。



ネパールの国政選挙の様子とその結果に思う

島田徹(竹の台)

ネパール滞在中、11月20日に実施された総選挙(両院制で今回は衆議院定数275小選挙区制165、比例代表110)の様子を見る事が出来ました。選挙運動の様子と選挙後の政治状況について、紹介します。

「おもしろい」選挙運動と投票当日の様子

1選挙運動の様子

- ①選挙宣伝カーは、2-3 台が連ねて、候補者の写真を張り付けて、ネパール音楽を流しながら走る。候補者の連呼や政策は訴えていないようだ。
- ②バイク 20 台ほどが旗を立てて走っていた。
- ③候補者と支持者 50 人くらいで拠点を練り歩いていた。
- ④投票場を本籍地から居住地に移転するには、15 年以上居住し、自宅を所有していないと変更できない。そのため、投票のために実家に帰らざるをえない。カトマンズでは多くの人が投票のため帰省する。その場合、候補者の中にはカトマンズから自分の選挙区までのバスを用意し、昼食券往復分 2 枚用意するボランティア活動?をしている。そのため、議員中に選挙費用を作るため、「賄賂」が必要とのこと。

⑤特に田舎では、飲み食いが常識となっており、一種のお祭りのようだ。車の荷台に人が一杯に乗って、村中を走っている光景も見た。しかし最近、費用が掛かるということで、投票日 3 日前から選挙活動の禁止、酒類の販売禁止(選挙関係)が取り決められたとのことだが・・・



私の部屋からの風景、お祭 りのようです!

2投票場の様子

①投票場には警察官(選挙のための 40 日間臨時警察官)が入場券をチェックする。投票場の襲撃や候補者が殺されることもあるので、投票場付近には武装警察官が銃を構えている風景も見かけた。



②投票用紙は、各政党のシンボルマークに印をつける方法で行われる(田舎の 60 歳以上の方は、子どもの頃、教育を受ける機会がなかったため文字が読めないため)。また、2 重投票防止のため、

爪に消えないインクをつける。

③投票結果は 2 週間後くらいに確定する。その後、与野党間で新政権のための 交渉が始まる。そして今回の政権は・・・

ネパール外交の「したたかさ」!

選挙結果と政権について日本でも次のよ







臨時選挙警察官 日本語ができる!

うに報道されました。「ネパールでは共産党毛沢東主

義センター(CPN-MC)のダハル議長が首相になった。それまで与党連合内であったダハル議長と最大政党ネパール議会党(NC)との間で首相の座を巡っての交渉が決裂。ダハル議長が与党連合を離脱し、野党と組み、過半数を得て首相になった」との内容です。

交渉の内容は、ダハル議長が、これまでの連立与党政権の継続ならば、任期 5 年間の最初の 2 年間の首相の座を要求したが認められなかった。そのため与党から離脱し、それまでの野党(中心は、統一共産党 CPN-UML(オリ党首))との連立で首相の座を得たものです。また、ダハルとオリとの話し合いで、最初の 2 年半がダハル、後半の 2 年半をオリが首相となることになった。

ダハルは、これまで 2008, 2017、今回で3回目の首相となります。オリも 2 回首相となっています。つまり、2008 年にネパール王国から共和制になった以降、25 年の間にダハル、オリの「中国寄り政権」が 5 回と、ネパール議会党の「インド寄り政権」が 5 回で、交互に政権の座についています。つまり過半数を超える単独政党がないため、5-6 党の連立政権が2-3年ごとに交代したことになります。(今回議員 275 名中7党連立与党 169・・ダハル毛派 32 オリ統一共産党78 国民自由党 20 その他 39/野党 106・・議会党 89 統一社会主義党 10 その他 7)

ネパールは中国とインドに挟まれているため、憲法 51 条で「非同盟中立」を規定しています。

政権の評価は両国からどれだけの援助金を引き出すかになっているように思われます。2-3 年毎の政権交代は結果的に両国のバランスをとっているネパール外交の「したたかさ」と考えれば、意義のある対応かもしれません。アジアで最貧国であるネパールにとって、諸外国からの援助金が頼りでアメリカや EU との調和も必要になってきます。これまでの政権の任務は国民生活向上よりこうした綱渡りの外交政策が主となっているように思います。今回の選挙での各政党マニフェストをみても当たり障りのない政策でした。

しかし、領土問題(中国・インド間)、平和問題(中国、インド、ロシア、アメリカへの対応)、人権問題 (ネパール人とインド系ネパール人とのあつれき)になると、各党の違いが浮き彫りになって、党の 分裂や連立政権の崩壊などが現れてくるのがこれまでの経過です。

2008 年にネパール王国から共和制に移行した時には大きな期待がありましたが、国民不在の政治が続き、それを反映してか一昨年のカトマンズ市長選挙では、無党派の 30 代の候補者が当選しました。

ネパールは地政学的にも重要な位置にあり、中国、インド、アメリカなどの核を持った大国の 利害がぶつかっています。

ネパールが今後とも非同盟中立路線の堅持と国民生活の安定を両立させていくことを願っています。同じような地政学的位置にある日本は、アメリカー辺倒で他国と対立する国づくりではなく、戦争放棄の憲法 9 条を持つ国であり、アジア全体に非同盟中立の動きを作る役割を果たすべきではないでしょうか。そのためにもネパールの「したたかな外交」を学ぶのも参考になると思っています。

NHK 文書開示等請求訴訟(104 名) 東京地裁 2/20 勝訴判決!!
「NHK と森下は、原告 1 人当たり 2 万円の損害賠償金を支払え!」(2024.4)
・・・・・ 私、本当に 2 万円もらえるの??・・・・・ 島田徹(竹の台)

この裁判は、かんぽ生命保険の不正販売を告発した NHK の「クローズアップ現代+」をめぐり、NHK 経営委員会が上田良一会長(当時)を「厳重注意」し、続編の延期・改変させた事件。

視聴者らが「報道の自由と国民の知る権利が侵された」と、NHK 経営委員会の責任を追及する全国的な運動を展開。2021 年 6 月、NHK と森下俊三経営委員長を 104 名が提訴しました。提訴から 2 年 8 か月、弁護団と原告団が条理を尽くして東京地裁でたたかった成果です。(原告団報告書より)

私も、「NHK とメディアを考える会(兵庫)」の運動に賛同し、原告団に参加しました。この度の勝訴判決の連絡を受けて、何よりも「損害賠償金 2 万円支払え」にうれしくなりました。負担金の一部でも回収できればとの思いです。(笑い)

2 月 20 日の東京地裁判決の内容は、①被告 NHK は録音データを抹消したとの主張を排して、被告 NHK に議事録と録音データの開示を命じたことです。又、開示しない債務不履行に対する損害賠償を認めました。②被告森下の開示妨害の不法行為損害賠償を認めたことです。

皆さんも最近の NHK の「大本営発表」の国営放送化の状態について、危惧していると思います。 これは NHK だけでなく、大手メディアでも同じ状況といえます。しかし、NHK は時々素晴らしい 作品を出しています。最近では TV 特集「膨張と忘却―理の人が見た原子力政策」(3 月 2 日放送)は結論ありきの原発政策の無責任さを改めて浮き彫りにしたもので、厳しい状況の中でこうし た作品が制作できたなあと現場の職員に拍手を送りました。(朝ドラのブギウギも面白かったですね!)

このような一面は評価しながらも、NHK として問題なのは、放送法には、経営委員は個別の番組に干渉してはならないと規定され、このことが裁判で争われたのです。にもかかわらず、3 月 13 日に稲葉 NHK 会長は記者会見で、新経営委員長に就任した野村ホールディングスの名誉会長・古賀信行氏に「個別の放送番組など業務の執行に関する事柄は、放送法で規定されている通り、執行部側の自主自律を担保していただくことが大切だ」といいながら「執行部が適切に業務執行できているかしっかりとチェックしていただきたい」と述べています。

これでは、放送法でいう番組編集の自由を放棄し、政権に忖度するメディアの代表としての地位を誇示しています。まさに、憲法 21 条の表現の自由に対する露骨な干渉です。 経営委員は「公共の福祉に公正な判断が出来るもの」を衆参両院の同意を得て、首相が任命する重要な役割を担っています。経営委員と NHK はその使命を自覚すべきです。経営委員会と NHK は 控訴を取り下げ、2 万円を支払え!

(放送法)

(放送番組編集の自由)

第三条 放送番組は、法律に定める権限に基づく 場合でなければ、何人からも干渉され、又は規律 されることがない。

(委員の任命)

第三十一条 委員は、公共の福祉に関し公正な判断をすることができ、広い経験と知識を有する



者のうちから、両議院の同意を得て、内閣総理大臣が任命する。この場合において、その選任については、教育、文化、科学、産業その他の各分野及び全国各地方が公平に代表されることを考慮しなければならない。

(委員の権限等)

第三十二条 委員は、この法律又はこの法律に基づく命令に別段の定めがある場合を除き、個別の放送番組の編集その他の協会の業務を執行することができない。

2 委員は、個別の放送番組の編集について、第三条の規定に抵触する行為をしてはならない。

(雑感 その4)

いろいろありましたが・・・・ (2024.10)

島田徹(竹の台)

1 帰国便がドタキャン!で 2 日延期。

8月21日カトマンズ空港13時発の便で帰国予定のため、前日は、準備も終わり、お別れ会なども済み、ホッとして部屋に戻ると19時ころに、日本にいる友人から連絡。「明日21日の飛行機はキャンセル。23日発―24日13時関空着となる」との連絡。エー?!である。これまで、こちらからの出発で問題はなかった。ただ、10年前、中国の昆明空港で到着が遅れ、ネパールへの乗り継ぎが出来ず、5日間の滞在となった。しかし、航空会社がホテルを対応してくれたので、滞在を楽しんだ。それ以降、乗り継ぎ時間は4時間を目安にしている。

今回も、ひとつの思い出になったと考えています。

2 インドの圧力が・・

8 月 HP に「日常茶飯事の政権交代?」の記事を掲載しました。ところが、その数日後に突然、インターネットが 1 日間、使えなくなりました。ネパールのテレビ放送はインドの衛星を使っており、その利用料金の交渉をめぐって、インドがインターネットを止めたそうです。噂によると、どうやら中国寄りの新しい政権(中国寄り)にインドの力を見せつけるためにしたとのこと(真実はわかりませんが・・・(笑))。

実は、9 年前にネパールの新憲法制定をめぐって、インドが怒り、ネパールへのガソリン輸送を止めました。その時、日常生活はパニックに陥り、バスの運行が制限され、私もバスの屋根に乗りました。この体験は非常に面白かったのですが・・・。

このように考えると、ネパールの政権運営は、きれいごとでは済まされないと実感したところです。

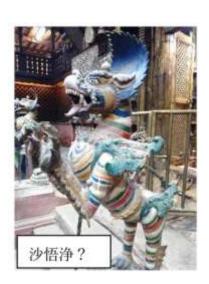
3 宗教のこと

私の宿舎前の食堂の方は、日本のある宗教団体に所属していることがわかりました。偶然にも神戸に「教会」があり、日本の見学も兼ねて 12 人が今年の 4 月に来日しました。自宅の近くだったので会いに行きました。そして、今回、ネパールでは教会に招待されました。

ネパール人にとって、宗教というのは多くの神の中の一つの神を祈る程度のようです。釈迦はヒンドゥー教のビシュヌ神の 25 番のうち 24 番目の化身とのことで、ヒンドゥー教の神を祈ることは、釈迦も祈っていることのようです。従って、精神のよりどころとして日本の神を祈っても、ヒンドゥー教の神が一つ増えた程度のものかもしれません。私もその時々に応じて、いろいろな神にお祈りしているので、ネパール人と相通じるようで、面白いとおもいます。

4 西遊記の孫悟空と沙悟浄?

私が以前、ネパールのカトマンズ空港で、猿が電線を伝って、悠々と歩いているのを見て、しかもその背景に雲がかかっていたので、思わず「孫悟空だ」と思ったことがあります。辞書で猿を調べると、猿は「baǎ-da-r」、雲は「baa-da-l」、猪は「badel」とあり、この 3 つの発音(ローマ字式で OK)がよく似ています。西遊記は三蔵法師が天竺(インド・・釈迦の生誕地はネパールのルンビニ)に経典をもらいに行く話なので、唐の人も、この三つの言葉を元に、孫悟空、筋斗雲、猪八戒、の登場人物にしたのかなと以前から思っていました。ただ、沙悟浄(かっ



ぱ?)は何の動物から来ているのかわかりませんでしたが、意外にも私の宿舎の隣のお寺(カトマンズでは格式の高い有名なお寺)にその回答がありました。

このお寺は何度も散歩がてらに寄るのですが、今回、寺の神様の守護神としてライオン(日本の狛犬)が左右にいて、その内側にもライオンが変身したという動物(写真)が左右にいるのを発見したのです。「沙悟浄はこれだ!」と直感しました。中国人もこの動物がよくわからなかったので、沙悟浄という架空の動物を創り上げ、西遊記の登場人物に入れたのではないかと考えています。(笑い)なお、WIKIでは「ヒンドゥー教の 3 大神の一つ、ブラフマー神の化身であるハヌマーンは外見が猿の神、叙事詩『ラーマーヤナ』でラーマ王子を助けて活躍する。身体の大きさを自由に変えられる。孫悟空の元になったと考えられる」としていますが、猪八戒と沙悟浄には言及していませんので、私の推測もありうるかなと考えています。

コーヒーブレイク



(青字の部分は3択クイズです)

救急車、消防車の奮闘に感謝! (2025.2) 島田徹(竹の台)

1月23日(木)午後に、西神 NT6地区防災コミュニティー主催の神戸市危機管理室と消防局管制室(市役所4号館)の見学会(約30名)に参加しました。

阪神淡路大震災から30年。竹の台地区の34階建てのマンションは震災当時、建設されたばかりで、ほとんど影響がなかったようです。ただ、気になっているのは、高層火災の場合、どのくらいまで放水が届くのだろう?また、近所で救急車と消防車が来ていたが、火事でもないのに?との疑問がありました。

まず、危機管理室は、市が避難命令などを発令する際、その基準を検討するための防災情報収集システムの場所だった。

興味を引いたのは消防局管制室。ここでは、119番通報があれば大きな画面を監視する人が4人。 各人4つの画面(電話情報、地図、車両の状態、NHKテレビ)を担当。後側に1名が4人を補佐。別に 2人がマスコミ対応など。この体制で1時間交代。(夜間は3時間体制)

119番は1日平均(200、400、500)?件で救急車が70%、夜間の病院照会が続く。間違い通報が10%と増えているのは、最近の携帯電話は落とすと自動的に119を発信している機種が増えているとのこと。火事は2%。

消防車のはしご車は50mが最大で、(10、13、18)?階までの救出に対応。それ以上階の各戸は、2方向避難(玄関、ベランダ)となっている。放水は途中階にポンプ機を設置する。高層は防災上、

自己リスクを考える必要があるとのこと。消防車は1日平均30 台が出動している。



救急車は市内に34台。1日(190、270、360)?件の出動。5

分に1台。急病が65%、一般負傷18%、転院搬送が8%と続く。昭和27年111件が平成6年は9 9,275件で右肩上がり。救急車は3名定員で、病名によっては5名が必要。その際、消防車の人員 を借りるため、消防車も出動するとのこと。(ガッテン!) 妻が以前救急車のお世話になったこともあり、少ない陣容で精いっぱい働いている消防局員に感謝、感謝。

私たちの命を守るこうした分野に無駄な軍事費の一部でも回せばどれだけ安心して暮らせるのだろうか。今の国民生活不在、アメリカ依存の軍事優先の政治に怒りを感じた見学会でした。

== 暮らしに憲法を! ==

(選択肢の回答はいずれも真ん中の数字)